



内閣府

～美ら島の未来を拓く～沖縄総合事務局
定例記者会見（５月）

平成２９年５月１８日（木）１４：００～
沖縄総合事務局６階「特別会議室」

【発表事項】

- １．「県民の県内観光等に関する調査」について
- ２．「農業生産工程管理（ＧＡＰ）に関する講演会」の開催について
- ３．「水源情報」について

出席者 沖縄総合事務局

局 長

次 長

次 長

総務部長

農林水産部長

開発建設部 総務調整官

能 登 靖

仲 程 倫 由

菊 地 春 海

山 谷 英 之

遠 藤 順 也

久保田 秀 一



県民の県内観光等に関する調査

2017.5.18定例記者会見
沖縄総合事務局総務部

調査趣旨

沖縄県の観光は、平成27年度の入域観光客数793.6万人、観光収入6,022億円と過去最高を記録し、平成28年度の各月の入域観光客数でも過去最高を記録するなど着実に増加している。

観光客数が増加している要因として、国内・海外航空路線の拡充、クルーズ船寄港回数の増加、訪日旅行人気の継続もあって外国人観光客の伸びが著しく見られるといったことが挙げられ、また、旅行目的は、観光地巡りのみならず、料理、ショッピング、休養、レジャーといった多種多様な旅行形態が見られることから、沖縄の至る所に観光客が訪れる状況となっている。

このような状況のもと、沖縄観光の持続的発展を図るためには、県民の県内観光を促進することも重要であると考えられる。そのことによって、地元に住む県民が沖縄の良さをアピールすることも期待ができる。また、県外観光客のみならず、県民目線による観光に関する意見も取り入れる必要があると考えられることから、県民の県内観光の頻度、理由、県内(県外)観光で感じた事等を調査することにより、県内観光の促進、観光に関する改善に寄与する目的での調査を行った。

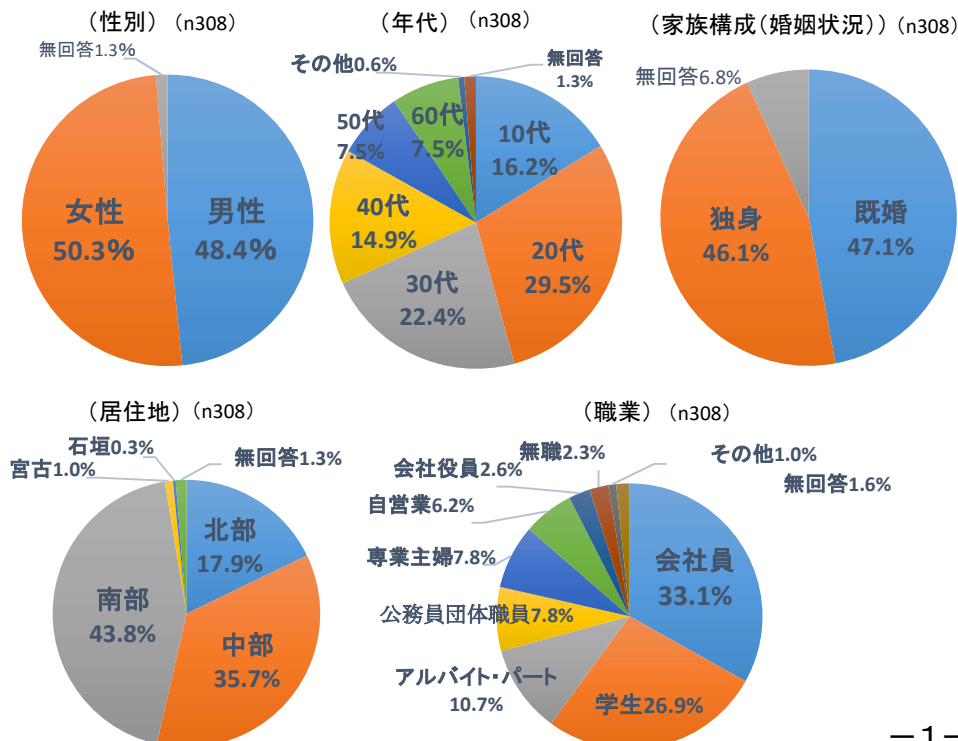
また、県民の外国人観光客に対する認識等の調査を併せて行った。

〔対面アンケート調査の実施概要〕

- (1)調査期間：平成29年1月28日～2月5日
- (2)調査対象：県内在住(18歳以上)
- (3)調査場所：北部(八重岳(さくら祭り会場))、中部(きらきらビーチ)、南部(那覇メインプレイス)
- (4)アンケート回答者数：308名

【回答者の属性】(P6～P7)

- ・性別は、男性48.4%、女性50.3%となっている。
- ・年代は、20代29.5%、30代22.4%、10代(18歳～19歳)16.2%となっている。
- ・家族構成は既婚47.1%、独身46.1%となっている。
- ・居住地は、南部43.8%、中部35.7%、北部17.9%となっている。
- ・職業は会社員33.1%、学生26.9%、アルバイト・パート10.7%となっている。

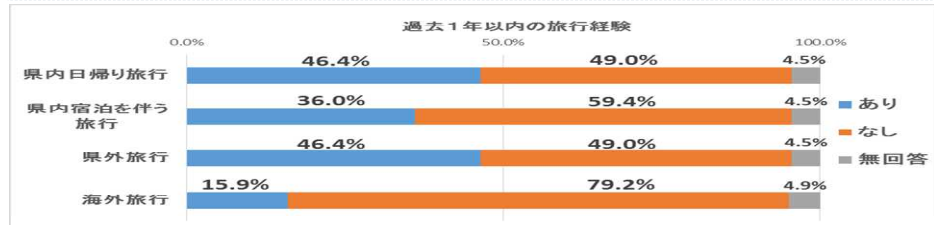


【過去1年以内の旅行経験】(P8) (n308)

過去1年以内の旅行経験は、

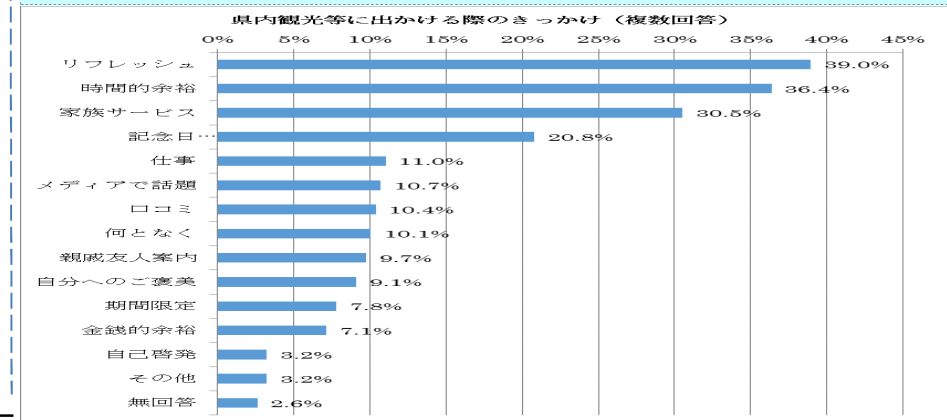
- ・県内日帰り旅行は、「あり」が46.4%、「なし」が49.0%。(※)
- ・県内宿泊旅行は、「あり」が36.0%、「なし」が59.4%。
- ・県外旅行は、「あり」が46.4%、「なし」が49.0%。
- ・海外旅行は、「あり」が15.9%、「なし」が79.2%。

※県内日帰り旅行に関しては、ショッピングや映画鑑賞を含む居住地近隣へ出かけることを「日帰り」で出かける旅」と捉える人とそうでない人が混在しています。



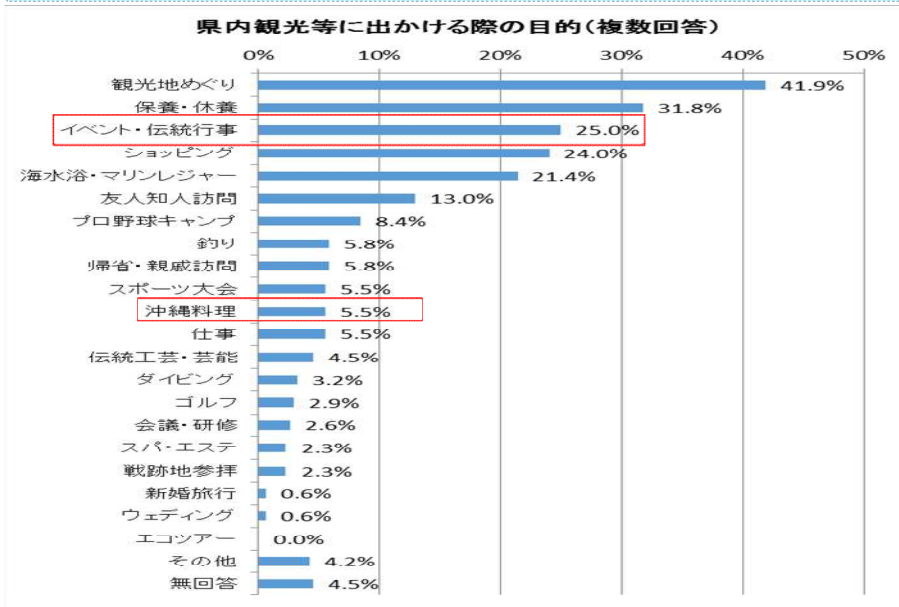
【県内観光地やイベント等に出掛ける際のきっかけ】(P9) (複数回答) (n308)

- ・県内観光地やイベント等に出掛ける際のきっかけは、「リフレッシュ」が39.0%、「休暇・連休等時間に余裕がある時」が36.4%、「家族サービス」が30.5%となっている。

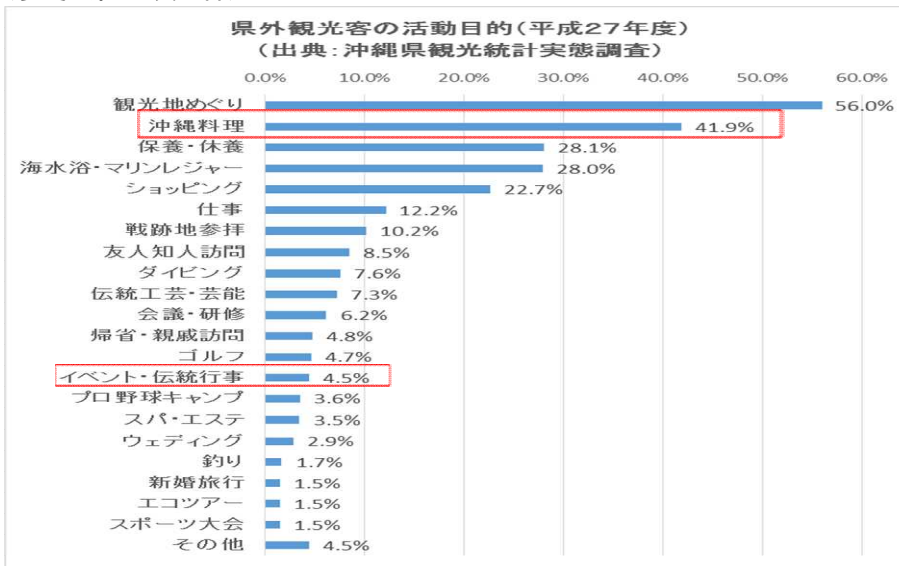


【県内観光地やイベント等に出掛ける際の目的】(P10) (複数回答) (n308)

- ・県内観光地やイベント等に出掛ける際の目的は、「観光地めぐり」が41.9%、「保養・休養」が31.8%、「イベント・伝統行事」が25.0%となっている。
- ・県外観光客とでは、沖縄料理(県外が多い)、イベント・伝統行事(県内が多い)といった違いがある。

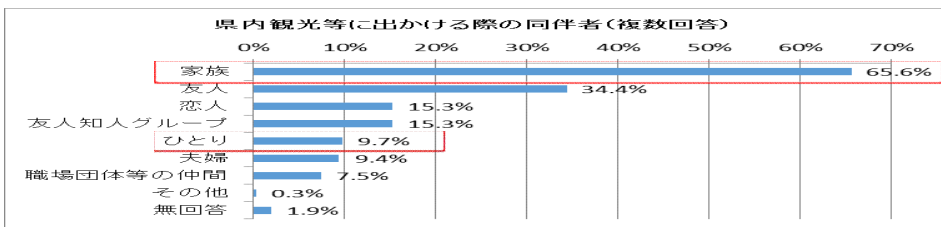


(参考: 県外観光客)

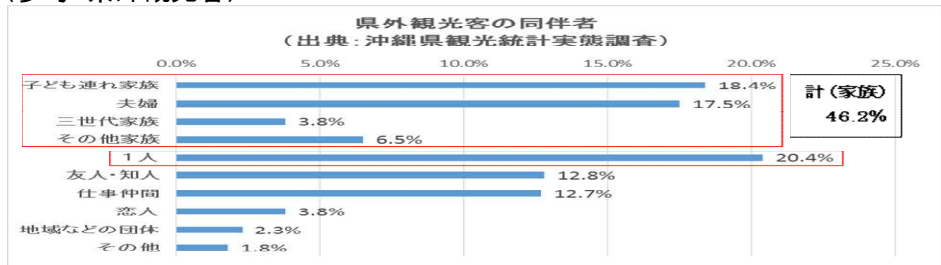


【県内観光地やイベント等に出掛ける際の同伴者】(P11) (複数回答) (n308)

- ・県内観光地やイベント等に出掛ける際の同伴者は、「家族」が65.6%、「友人」が34.4%、「恋人」及び「友人・知人」が15.3%となっている。
- ・県外観光客とでは、家族、友人(県内が多い)、1人旅(県外が多い)といった違いがある。



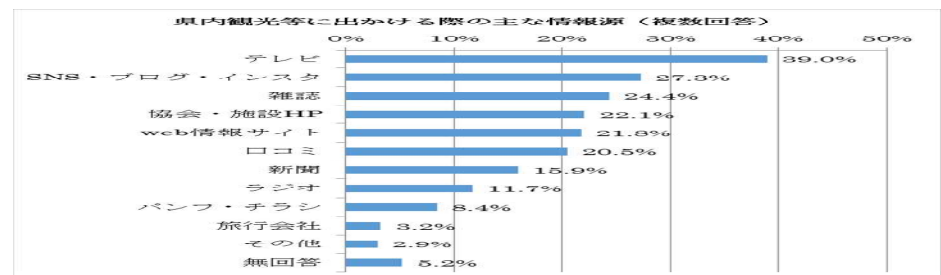
(参考: 県外観光客)



【県内観光地やイベント等に出掛ける際に主に活用する情報源】(P12)

(複数回答) (n308)

- ・県内観光地やイベント等に出掛ける際に、主に活用する情報源は、「テレビ」が39.0%、「SNS・ブログ・インスタグラム」が27.3%、「雑誌」が24.4%となっている。



(参考: 年代別)

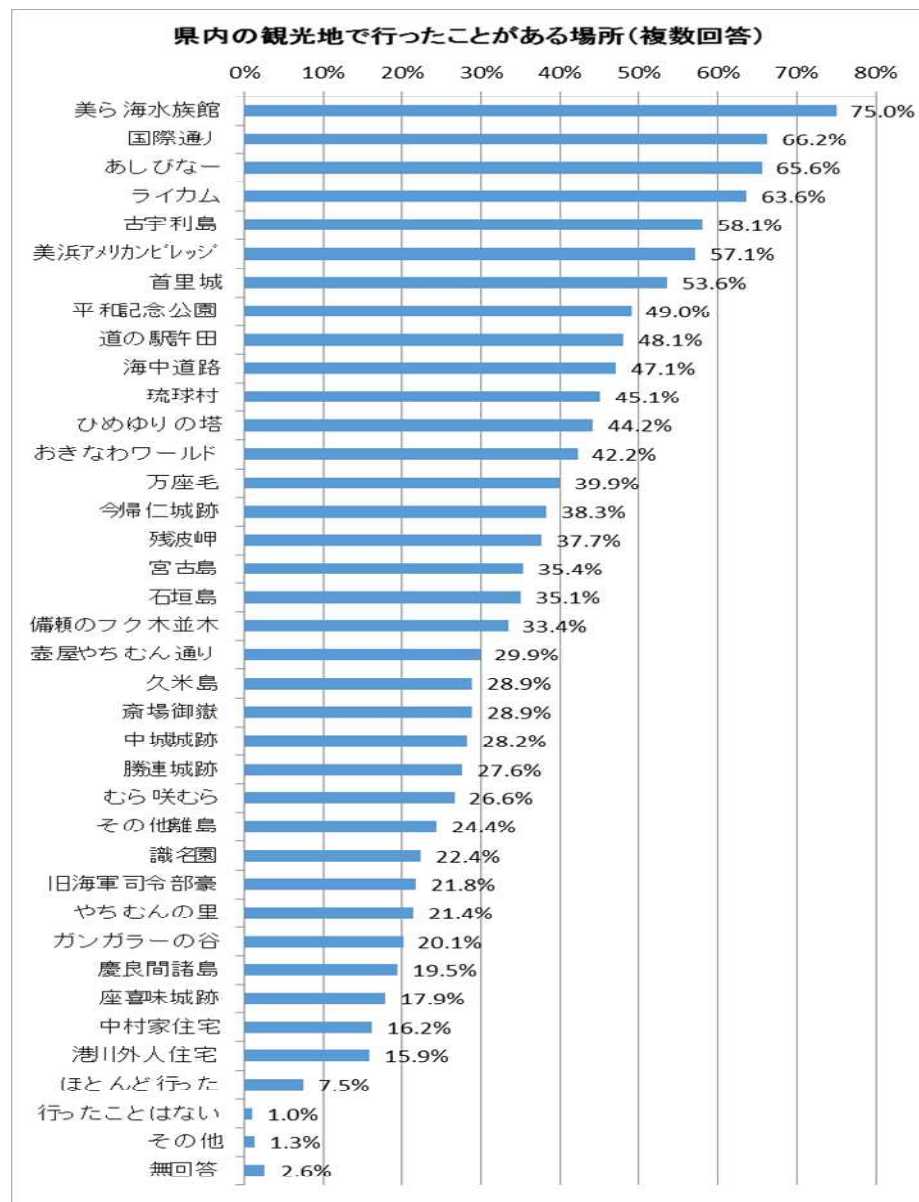
	テレビ	SNS・ブログ・インスタ	雑誌	協会・施設HP	web情報サイト	口コミ	新聞	ラジオ	パンフ・チラシ	旅行会社	回答者数
10代	26名	23名	9名	3名	4名	3名	名	1名	3名	名	50名
20代	35名	38名	27名	27名	19名	21名	3名	7名	7名	4名	91名
30代	26名	16名	13名	20名	19名	19名	17名	13名	5名	4名	69名
40代	20名	3名	13名	10名	12名	12名	14名	10名	4名	1名	46名
50代	5名	3名	7名	6名	8名	5名	10名	3名	6名	名	23名
60代	7名	1名	5名	1名	5名	3名	5名	2名	1名	1名	23名

※複数回答のため各選択の合計と回答者数は一致しない。

【県内の観光地（観光名所等）で行ったことがある場所】（P13）

（複数回答）（n308）

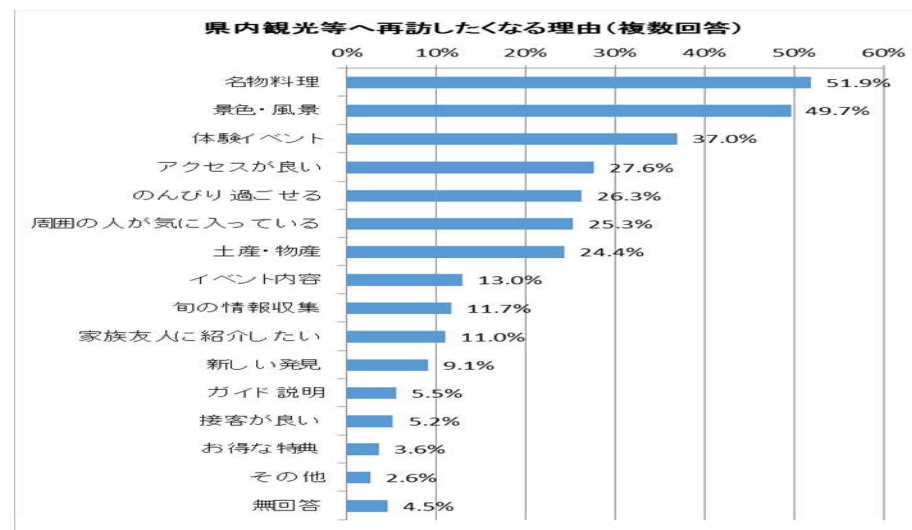
県内の観光地（観光名所等）で行ったことがある場所は、「美ら海水族館」が75.0%、「国際通り」が66.2%、「沖縄アウトレットモールあしびなー」が65.6%となっている。



【県内観光地やイベント等へ再訪したくなる時の理由】（P15）

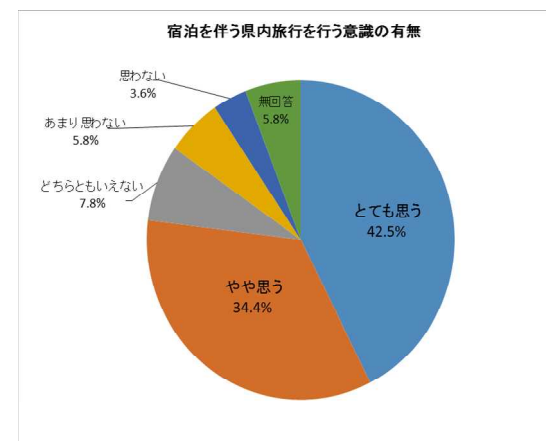
（複数回答）（n308）

県内観光地やイベント等へ再訪したくなる時の理由は、「名物料理」が51.9%、「景色・風景」が49.7%、「体験イベント」が37.0%となっている。



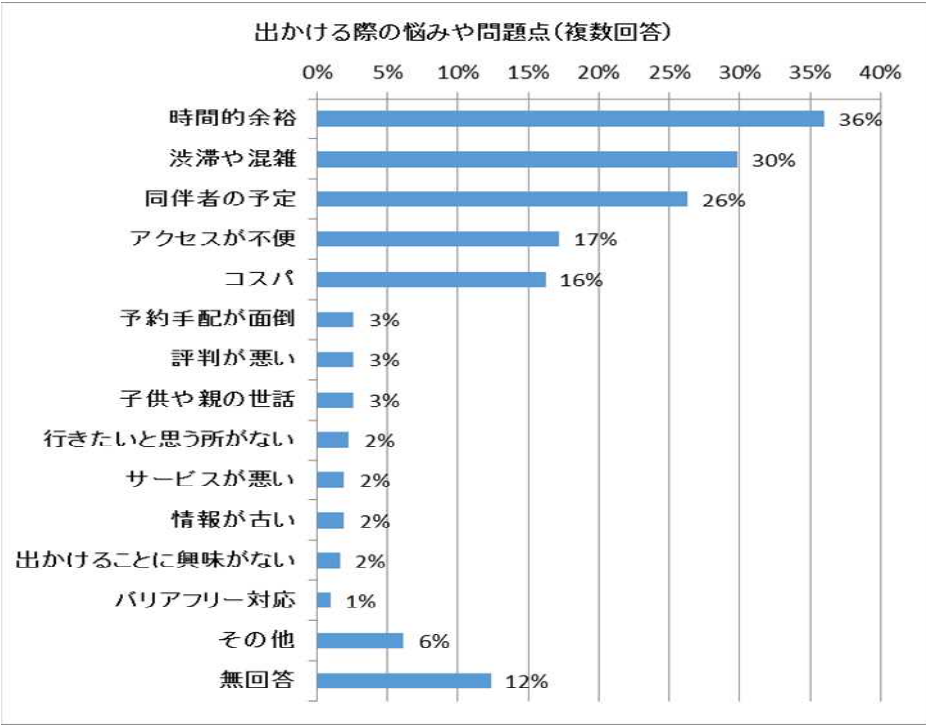
【宿泊を伴う県内旅行を行う意識の有無】（P16）（n308）

県内観光地やイベント等に出掛ける際、機会があれば宿泊を伴う旅行で出掛けてみたいかは、「（出掛けてみたいと）とても思う」が42.0%、「やや思う」が34.0%と合計76.0%が宿泊を伴う旅行をしてみたいとなっている。



【県内観光地やイベント等に出掛けようと思う際の悩みや、出掛けることを諦めてしまう理由】(P19)
(複数回答) (n308)

県内観光地やイベント等に出掛けようと思う際の悩みや、出掛けることを諦めてしまう理由は、「時間的な余裕がない」が36.0%、「渋滞や混雑が苦手」が29.9%、「同伴者(家族や友人等)と予定が合わない」が26.3%となっています。



【参考:年代別回答数】

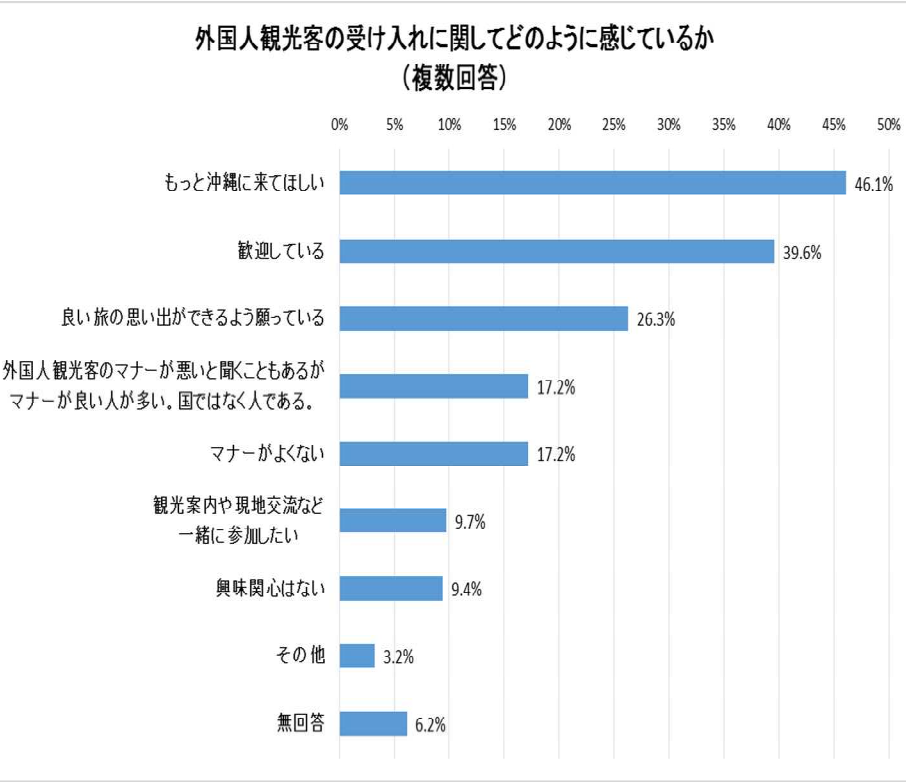
	時間的余裕	同伴者の予定	アクセスが不便	コスパ	サービスが悪い	予約手配が面倒	情報が古い	評判が悪い	バリアフリー対応	子供や親の世話	渋滞や混雑	行きたいところがない	出かけることに興味が無い	その他	無回答	回答者数
10代	26名	18名	7名	4名	2名	名	名	2名	名	名	4名	名	3名	2名	7名	50名
20代	40名	29名	13名	16名	2名	3名	2名	2名	名	1名	23名	2名	1名	4名	6名	91名
30代	23名	18名	17名	15名	名	3名	1名	2名	名	5名	29名	2名	1名	5名	6名	69名
40代	13名	9名	12名	8名	1名	名	2名	2名	1名	2名	21名	2名	名	5名	4名	46名
50代	6名	5名	3名	6名	名	1名	名	名	名	名	7名	名	名	2名	2名	23名
60代	2名	2名	1名	名	名	1名	1名	名	2名	名	7名	1名	名	名	10名	23名

【外国人観光客の受入に関してどのように感じているか】(P23)
(複数回答) (n308)

沖縄への外国人観光客も年々増えており、今後も増加傾向にあると考えられるが、外国人観光客の受入に関してどのように感じているかは、「もっと沖縄に来てほしい」が46.1%、「歓迎している」が39.6%、「沖縄で良い旅の思い出ができるよう願っている」が26.3%となっている。

またそれらを含む、外国人観光客の受入に関しての好意的な回答票数は、全回答総数539票中、79.4%を占める割合となっている。

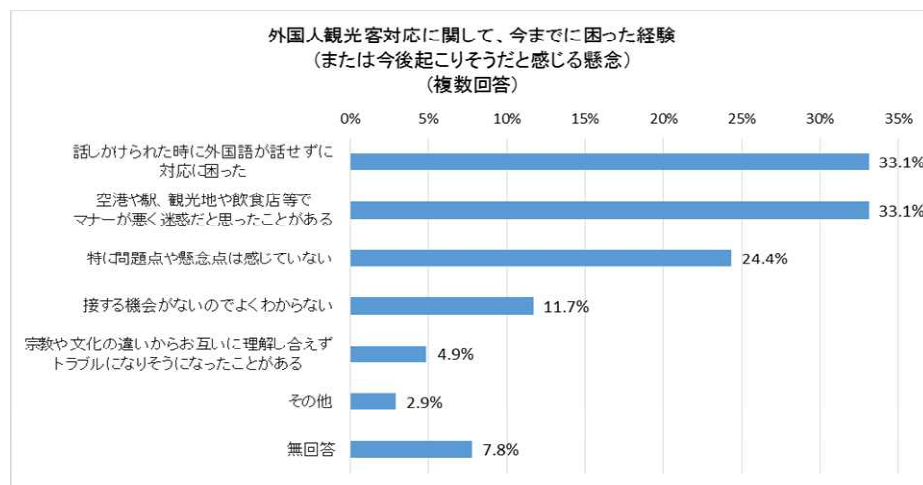
一方、「マナーが良くない」と回答した人も全体の17.2%ありますが、「マナーが良い人が多い。国ではなく人である。」と回答された方も同じ17.2%となっている。



【外国人観光客への対応に関して、今までに困った経験(または今後起こりそうだと感じる懸念点)】(P24) (複数回答) (n308)

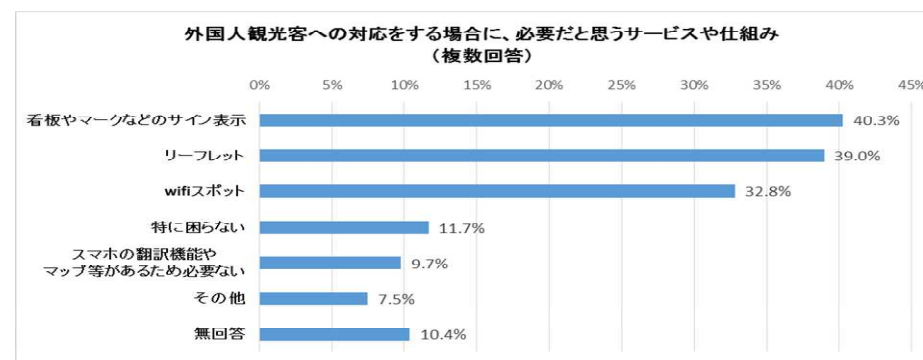
外国人観光客への対応に関し、今までに困った経験(または今後起こりそうだと感じる懸念点)は、「道案内等話しかけられた時に外国語が話せずに困ったことがある(または困りそうだと感じている)」が33.1%、「空港や駅、観光地や飲食店等でマナーが悪く迷惑だと思ったことがある(または今後感じる懸念がある)」33.1%となっている。

一方で、「特に問題はない(またはなさそう)」が24.4%、「よくわからない」が11.7%となっている。



【今後、県民が外国人観光客へ対応する場合に、あると良い、又は必要だと思われるサービスや仕組みについて】(P25) (複数回答) (n308)

今後、県民が外国人観光客をもてなすに当たって、あると良い、または必要だと思われるサービスや仕組みは、外国語対応が可能な飲食店やホテル、観光施設等への分かりやすい「看板やマークなどの表示」が40.3%、簡単な挨拶や道案内の方法等が書かれた「リーフレット等」の配布・整備」が39.0%、外国人観光客が自ら自由にwebで検索できるように、県内の「wifi環境の整備(強化)」が32.8%となっている。



○ヒアリング調査結果概要（P26～30）

アンケート調査を踏まえ、県民の県内観光動向の現状や課題について、訪日外国人観光客の受入に関する意識や課題など、より状況を把握すべく、県内の観光事業者及び観光メディア事業者、観光市場動向に知見を有する有識者に対しヒアリング調査を実施。

○県内観光事業者

①県内観光需要を促進するための課題

・県内観光需要を促進するためには、地域との共生、地域の課題を解決するための商品づくりを推進していくことが重要であると思う。当社は地域にとっての「公民館」のような存在、コミュニティホテルを目指しており、県内外の観光客だけではなく、地域の方にとって使いやすいと思って頂ける仕掛けづくりをしている。また地域の中に積極的に出かけ、地域と県内外の他の市場やお客様とを繋ぐ役割を担い、地元で愛され続ける企業になりたいと思うことが必要。

②県内観光需要を促進するための提案

・観光商品は「売れるまで」が難しいと思う。お客様に一定の評価を頂くまで、繋げること、継続すること、地域を巻き込んでいくことが大事であり、県外から移住して地域で頑張っている方々をも巻き込んでいくのが重要であると思う。定期的にハード面のリノベーションも行っているが、ソフト開発や地域密着の想いで続けていくことがより大切であると思う。地域全体で、「観光」を商売として捉えること、盛り上がるがすぐ去るものであり浮き沈みがある業界と捉えずに取り組んでいけるかどうか重要なポイントだと思う。

③訪日外国人客の受入に関して

・文化や風習の違いから起因していると思われる課題もある。また、きめ細かな受入体制の整備や外国からのお客様だけに頼り過ぎないような経営戦略などにも配慮していきたいと思う。

○県内観光メディア事業者

①県内観光需要を促進するための現状課題

・船やバス等県内の二次交通との連携や目的地までの移動手段を工夫できるともっと出かけやすくなると思う。また、現地滞在時間の延長を促進できるような、24時間ステイなどの宿泊プラン造成が進むことで、利用者の移動時間帯を分散させ渋滞を回避するなど、利用しやすくなるような仕掛けづくりが必要だと考える。

②県内観光需要を促進するための提案

・ソフトコンテンツの開発は今後も必要だと思っており、特に食系イベントは人が動きやすくなっていると思う。ホテル宿泊の傾向は家族向け2食付きプランが最も多く売れている。値ごろ感やお得感を感じるプラン程よく売れている。ホテル滞在の楽しみ方や過ごし方などをさらに提案していきたい。
・県外観光客の観光案内に同伴して県民が観光に出かける場合も多いので、現地ローカルスポットの情報や、県外観光客に喜ばれる地元の人と触れ合えるプログラムなどの情報発信を増加させることで、さらに県内需要を増やしていけるのではと思う。

③訪日外国人客の受入に関して

・沖縄の文化や習慣に関する理解促進、マナー改善などを啓蒙し、訪日外国人観光客の受入を促進していきたい。地元住民の理解を得ながら、沖縄の良さを感じてくれる外国人観光客を積極的に迎え入れていきたいと思う。

○県内有識者

①県内観光需要を促進するための現状課題

・渋滞解消などを含むアクセスの利便性を高めることも重要だが、駐車場の有無や駐車スペースの確保など車移動を考慮した現地での整備がしっかりできているとより出かけやすくなると思う。またホテルでは日帰利用だけではなく、夜や朝の滞在プログラムを開発する等、宿泊したくなる仕組みづくりも重要であり、ホテル外の事業者等と連携したプログラムの用意ができるとさらに良いのではと感じている。

②県内観光需要を促進するための提案

・県内観光の意義としても、国内外からの観光客を迎える沖縄県民自身が、自ら旅をすることで、よりもてなしの心や手法について理解を深めることも重要だと思っている。日本国内はもちろん海外から訪れる観光客を「うとういむち(おもてなし)」の心で温かく迎え入れる沖縄県民の人材育成も必要。
・新規性、話題作りの必要性も感じており、海外の先進地やトレンドに関する情報収集を行い、外部の視点を取り入れたマーケティング、沖縄ならではの海洋資源を生かした楽しみ方を造成し続けていくことも重要であると思う。県民の皆さんに出かけてみたいと思って頂く観光施策づくりのためには、海外や県外の新しい視点や視線を生かして、既存商品を磨くことが大切であると思う。

③訪日外国人客の受入に関して

・沖縄の文化や習慣、マナーなどへの理解を深めるためのマナーブック等の支援ツールの作成や、外国人観光客の満足度向上のためにハードやソフトの整備、多言語対応の強化など進めていくことが必要。

県民の県内観光需要促進に向けた今後の展望

県民の県内観光需要を促進するための今後の展望として、調査結果及びヒアリング結果から、以下のような取り組みを推進していくことが望ましいと考えられる。

●観光関連事業者等

①県内在住者の県内観光等のきっかけとしては、リフレッシュのためといった自分自身を癒すニーズと、家族サービスといった家族団らんの時間を取りゆっくり過ごすニーズとの大きく二つが挙げられるが、時間的な余裕がある時に出かけるだけでなく、記念日等のお祝いや泊まりたいくなるような施策づくりを推進し、ホテル等における滞在満足度や過ごし方提案の充実が必要と考えられる。

②目的を県外観光客と比較すると、1位は同じ「観光地めぐり」だが、41.9%とやや低く(県外56.0%)、「保養・休養」が、31.8%とほぼ同率(県外28.1%)、「イベント・伝統行事」が、25.0%と高くなっており(県外4.5%)、県外観光客と県内観光客では観光目的の差異が見られるため、県内観光客のニーズや旅行目的を意識した商品、プロモーション施策の構築も必要であると考えられる。(逆に県外観光客がイベント目的で訪れる比率を高める必要もあるかと考えられる。)

③再訪理由の主な要因として、他では味わえない体験が上位を占めており、アクセスの良さや接客の良さ等を上回る結果となっていることから、リピート顧客を増加させるためには、他の土地や日常生活の中では味わえないような空間づくりや体験プログラム等の開発、プロモーションにおいても非日常感や特別感をより訴求していくことで県内需要を拡大させることも可能であると考えられる。また、観光施設やイベント等における接客やおもてなし、ガイド説明などを充実させ、利用者満足度を向上させることも重要であると考えられる。

④県内観光等に出掛ける際の同伴者として「家族」と回答した202名中、お子様がいる方は約54%を占めているため、子供と一緒に楽しめるイベントの造成や観光地等の環境づくりを推進することで、より県民の観光需要の伸びしろを高めることも可能であると考えられる。

⑤テレビを活用した情報発信は比較的どの世代にも有効であり、加えて20代等の若年層向けにはSNS等を活用した情報発信、また40～60代への情報発信では新聞やwebサイトの活用を促進するなど、ターゲット毎に情報発信の媒体を使い分けることも重要であると考えられる。

●地域連携

①「施設内外の環境整備」や「混雑・渋滞解消」、「交通アクセス」に関する改善要望に関しては、観光事業者単体での対応に限界があるため、行政や地域の企業・住民等を巻き込み連携した施策構築が必要であると考えられる。

②今後の訪日外国人観光客の受入に関しては、外国語対応が可能な飲食店やホテル、観光施設等への分かりやすい「看板やマークなどの表示」や簡単な挨拶や道案内の方法等が書かれた「リーフレット等」の配布・整備、「wifi環境の整備」など、行政や県内全域における連携体制の構築も有効であると考えられる。

(参考)

沖縄ミニ経済レポート調査一覧

【2013年】

「那覇まちま〜い」の経済効果等について（2013年7月）

【2014年】

沖縄における専業主婦の就労意識等について（2014年2月）

島豆腐に関する調査等について（同年5月）

沖縄リゾートウェディングに関する調査について（同年9月）

「かりゆしウェア」に関する調査について（同年11月）

【2015年】

「マラソンin沖縄」に対する県外ランナー意向等調査（2015年2月）

沖縄県内大学生の就職に対する意識等調査について（同年5月）

沖縄の通訳案内等に関する調査について（同年9月）

【2016年】

「組踊」に関する調査について（2016年3月）

沖縄の伝統工芸品「織物」に関する調査（同年6月）

全国の「アンテナショップ」に関する調査（同年9月）

離島の高校生に関する意識調査（同年12月）

【2017年】

働く女性に関する意識調査（2017年2月）

○公表資料（URL）：<http://www.ogb.go.jp/soumu/3094/010099.html>



県民の県内観光等に関する調査 (定例記者会見資料)

【本件に関するお問い合わせ先】

内閣府沖縄総合事務局 総務部調査企画課
担当：大嶺

[Tel:098-866-0047](tel:098-866-0047) (直通)

目 次

I. はじめに	4
II. 県民の県内観光に関する調査について	5
1. アンケート調査概要	5
2. 有識者ヒアリング調査概要	5
3. アンケート調査結果	6
(1) 回答者の属性	6
(2) 県民の県内観光同行	8
①過去1年以内の旅行経験	8
②県内観光地やイベント等に出掛ける際のきっかけ	9
③県内観光地やイベント等に出掛ける際の目的	10
④県内観光地やイベント等に出掛ける際の同伴者	11
⑤県内観光地やイベント等に出掛ける際に主に利用する情報源	12
⑥県内の観光地（観光名所等）で行ったことがある場所	13
⑦県内で行ったことがあるイベント	14
⑧県内観光地やイベント等へ再訪したくなる時の理由	15
⑨宿泊を伴う県内旅行を行う意識の有無	16
⑩行ったことがある県内観光地やイベントの中で、 特に印象に残っている観光地等の名称とその理由について	17
⑪行ったことのある県内観光地やイベントの中で、改善して 欲しいと思う観光地等の属性とその理由について	18
⑫県内観光地やイベント等に出掛けようと思う際の悩みや、 出掛けることを諦めてしまう理由について	19
⑬今後1年以内の県内観光地やイベント等への参加意向度	20
⑭沖縄らしい、沖縄の良さを感じると思う場所	21
(3) 県外観光地から見た沖縄観光の改善点等について 県外観光地の良かった（満足した）点、県内観光に 取り入れて欲しいと思う点（サービスや商品内容等）	22
(4) 県内に訪れる外国人観光客に関する意識等 ①外国人観光客の受入に関して	23
②外国人観光客への対応に関して、今までに困った経験 （または今後起こりそうだと感じる懸念点）	24
③今後、県民が外国人観光客へ対応する場合に、あると良い または必要だと思われるサービスや仕組みについて	25

4. ヒアリング調査結果	2 6
(1) ヒアリング概要	2 6
(2) ヒアリング調査結果	2 6
① 県内観光事業者	2 6
② 県内観光メディア事業者	2 8
③ 県内有識者	2 9
 Ⅲ. 本調査のまとめと今後の展望	 3 1
1. 調査結果まとめ	3 1
(1) アンケート調査結果のまとめ	3 1
(2) ヒアリング調査結果のまとめ	3 2
2. 県民の県内観光需要促進に向けた今後の展望	3 5

I. はじめに

沖縄県の観光は、平成27年度の入域観光客数793.6万人、観光収入6,022億円と過去最高を記録し、平成28年度の各月の入域観光客数でも過去最高を記録するなど着実に増加しています。

観光客数が増加している要因として、国内・海外航空路線の拡充、クルーズ船寄港回数の増加、訪日旅行人気の継続もあって外国人観光客の伸びが著しく見られるといったことが挙げられ、また、旅行目的は、観光地巡りのみならず、料理、ショッピング、休養、レジャーといった多種多様な旅行形態が見られることから、沖縄の至る所に観光客が訪れる状況となっています。

このような状況のもと、沖縄観光の持続的発展を図るためには、県民の県内観光を促進することも重要であると考えられます。そのことによって、地元に住む県民が沖縄の良さをアピールすることも期待ができます。また、県外観光客のみならず、県民目線による観光に関する意見も取り入れる必要があると考えられますことから、県民の県内観光の頻度、理由、県内(県外)観光で感じた事等を調査することにより、県内観光の促進、観光に関する改善に寄与する目的での調査を行いました。

また、県民の外国人観光客に対する認識等の調査を併せて行いました。

Ⅱ．県民の県内観光に関する調査について

本調査では、沖縄県内在住者 300 名を目標に、県内観光の頻度、理由、県内(県外)観光で感じた事等について、対面方式によるアンケート調査を実施しました。

調査の結果、県内在住者 308 名から回答を得ることができました。

あわせて、県内観光関連事業者、県内有識者等に対しヒアリング調査を実施しました。

1. アンケート調査概要

(1) 調査目的

- ①県民の県内観光動向調査（県内観光の経験有無、目的、行き先、課題等）
- ②外国人観光客への意識調査（認識、課題等）

(2) 調査期間

平成 29 年 1 月 28 日～2 月 5 日

(3) 調査場所

北部(八重岳)、中部（きらきらビーチ）、南部（那覇メインプレイス）

(4) 調査対象

県内在住者

(5) アンケート回収状況

	合計
1. アンケート配布数(A)	308 名
2. アンケート回収数(B)	308 名
3. 有効回答(C)	308 名
4. 無効回答(D)	0 名
5. 有効回答率 (C) / (A)	100%

(参考)

①年代別内訳

18 歳～19 歳	50 名
20 歳～29 歳	91 名
30 歳～39 歳	69 名
40 歳～49 歳	46 名
50 歳～59 歳	23 名
60 歳以上	23 名
その他無回答含む	6 名
合計	308 名

②居住地別内訳

北部 55 名、中部 110 名、南部 135 名、宮古 3 名、八重山 1 名、久米島 0 名、無回答 4 名（内、県外からの移住者 25 名）

2. 有識者ヒアリング調査概要

(1) 対象者

- ①県内観光事業者
- ②県内観光メディア事業者
- ③有識者

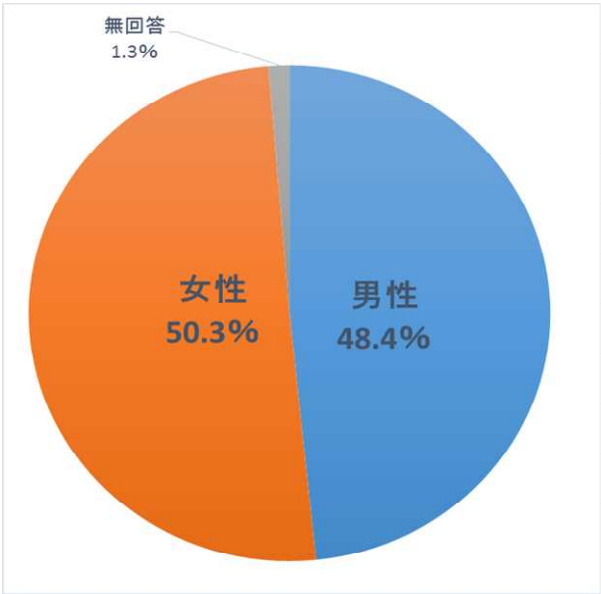
(2) 実施期間

平成 29 年 3 月 14 日（火）、16 日（木）

3. アンケート調査結果

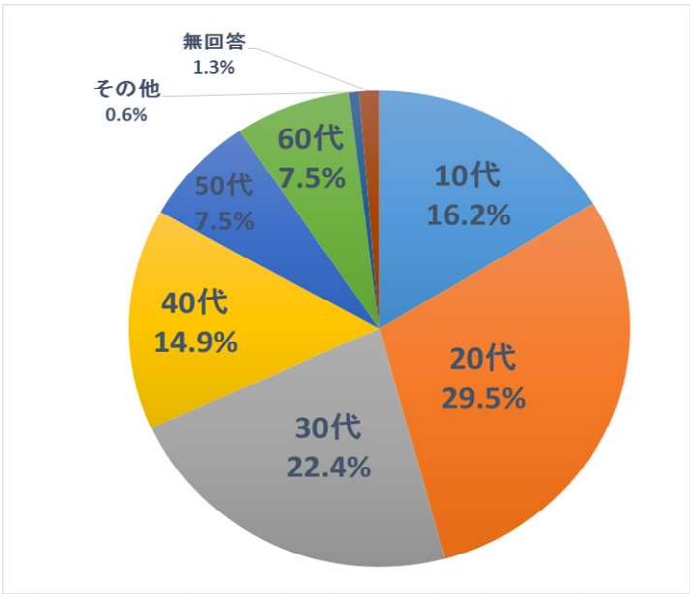
(1) 回答者の属性

性別



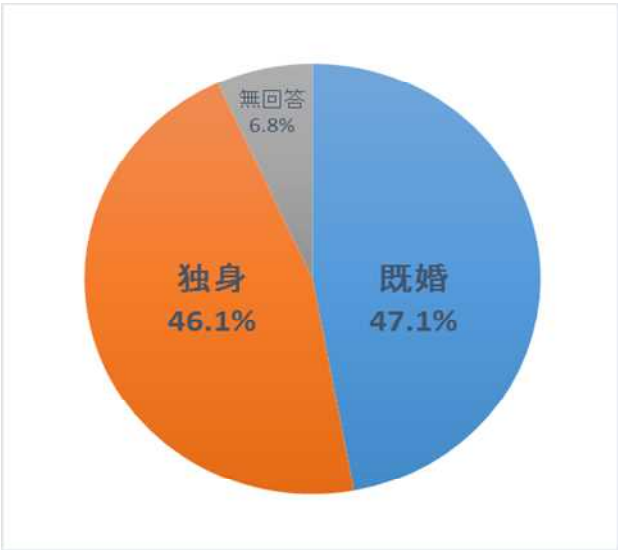
男性	女性	無回答	計
149 名	155 名	4 名	308 名

年代



10代	20代	30代	40代	50代	60代	その他	無回答	計
50 名	91 名	69 名	46 名	23 名	23 名	2 名	4 名	308 名

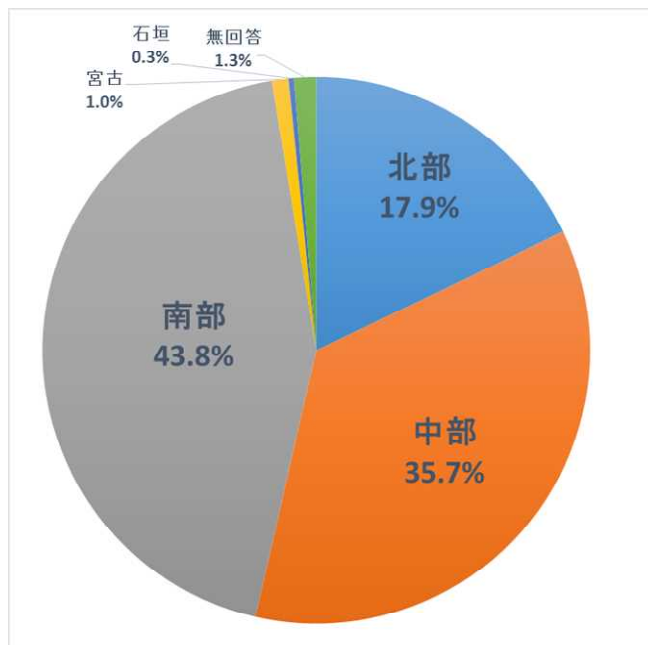
家族構成（婚姻状況）



既婚	独身	無回答	計
145 名(105)	142 名(9)	21 名(5)	308 名(119)

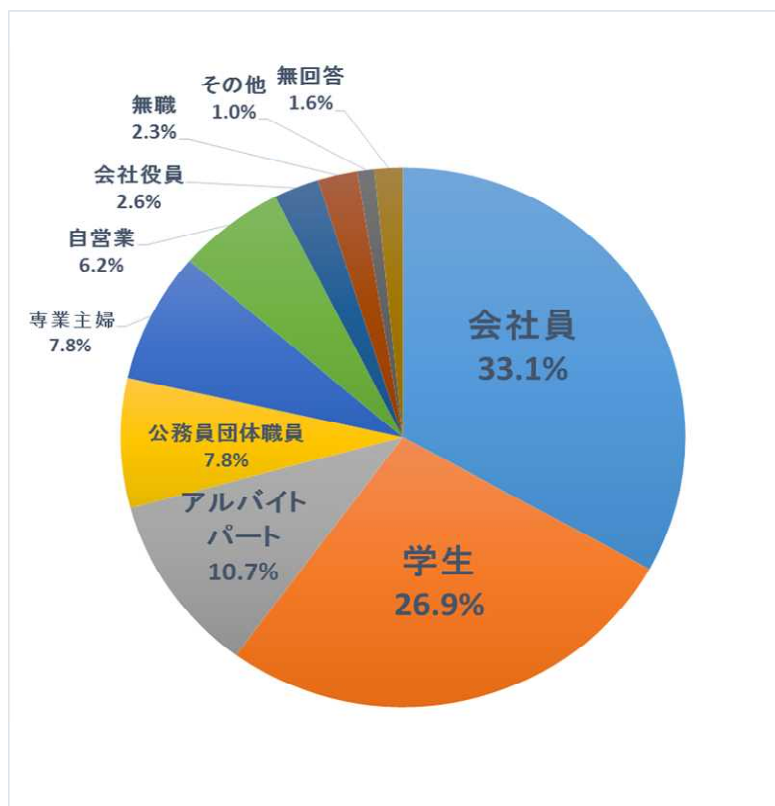
※括弧書きはお子様がいる方の数。

居 住 地



北部	中部	南部	宮古	石垣	無回答	計
55 名	110 名	135 名	3 名	1 名	4 名	308 名

職 業



会社員	学生	アルバイトパート	公務員団体職員	専業主婦	自営業	会社役員	無職	その他	無回答	計
102 名	83 名	33 名	24 名	24 名	19 名	8 名	7 名	3 名	5 名	308 名

(2) 県民の県内観光動向

① 過去1年以内の旅行経験

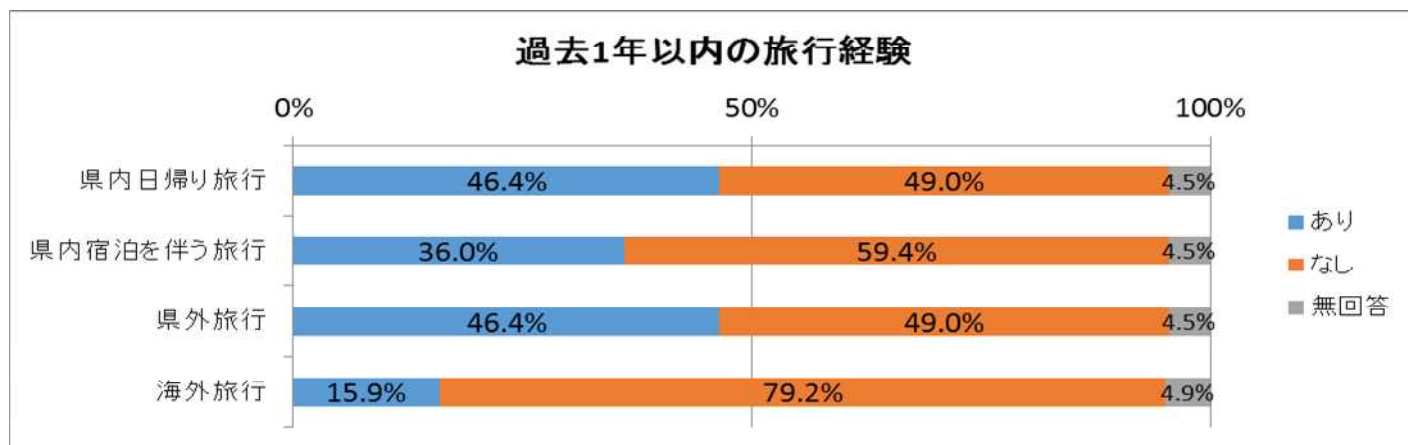
(県内日帰り旅行、県内宿泊旅行、県外旅行、海外旅行)

過去1年以内の旅行経験は、

- ① 県内日帰り旅行は、「あり」が46.4%、「なし」が49.0%。(※)
- ② 県内宿泊旅行は、「あり」が36.0%、「なし」が59.4%。
- ③ 県外旅行は、「あり」が46.4%、「なし」が49.0%。
- ④ 海外旅行は、「あり」が15.9%、「なし」が79.2%。

※県内日帰り旅行に関しては、ショッピングや映画鑑賞を含む居住地近隣へ出かけることを「日帰りで出かける旅」と捉える人とそうでない人が混在しています。

図表 1



	あり	なし	無回答
県内日帰り旅行	143 名	151 名	14 名
県内宿泊を伴う旅行	111 名	183 名	14 名
県外旅行	143 名	151 名	14 名
海外旅行	49 名	244 名	15 名

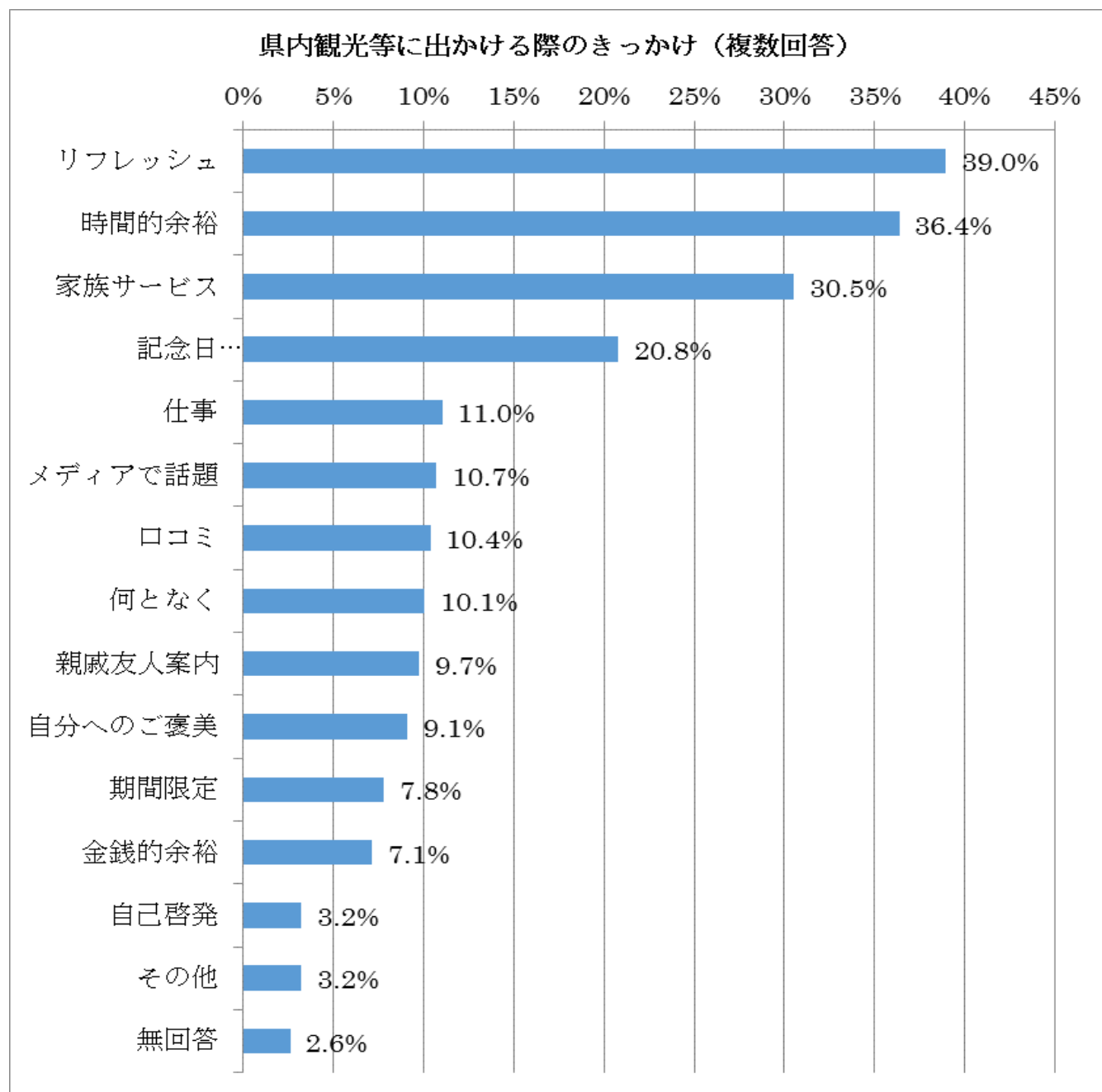
(参考) 過去1年以内の旅行経験ありの方の旅行回数

	1回	2回	3回	4回	5回～9回	10回～19回	20回以上	無回答	合計
県内日帰	17	14	8	7	10	15	38	34	143
県内宿泊	34	29	12	2	5	8	2	19	111
県外旅行	46	35	16	7	8	6	3	22	143
海外旅行	24	9	1	1	3	1	0	10	49

② 県内観光地やイベント等に出掛ける際のきっかけ

県内観光地やイベント等に出掛ける際のきっかけは、「リフレッシュ（のんびりしたい）」が 39.0%、「休暇・連休等時間に余裕がある時」が 36.4%、「家族サービス」が 30.5%となっています。

(図表 2)

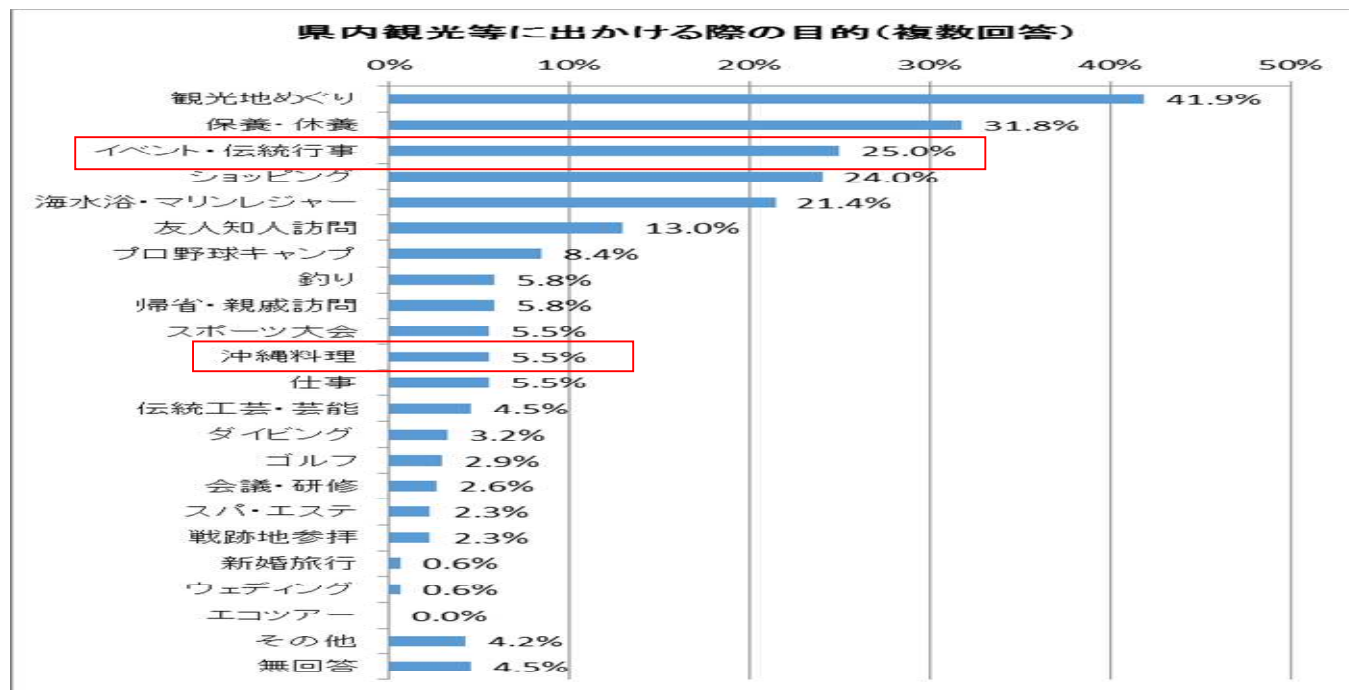


③ 県内観光地やイベント等に出掛ける際の目的

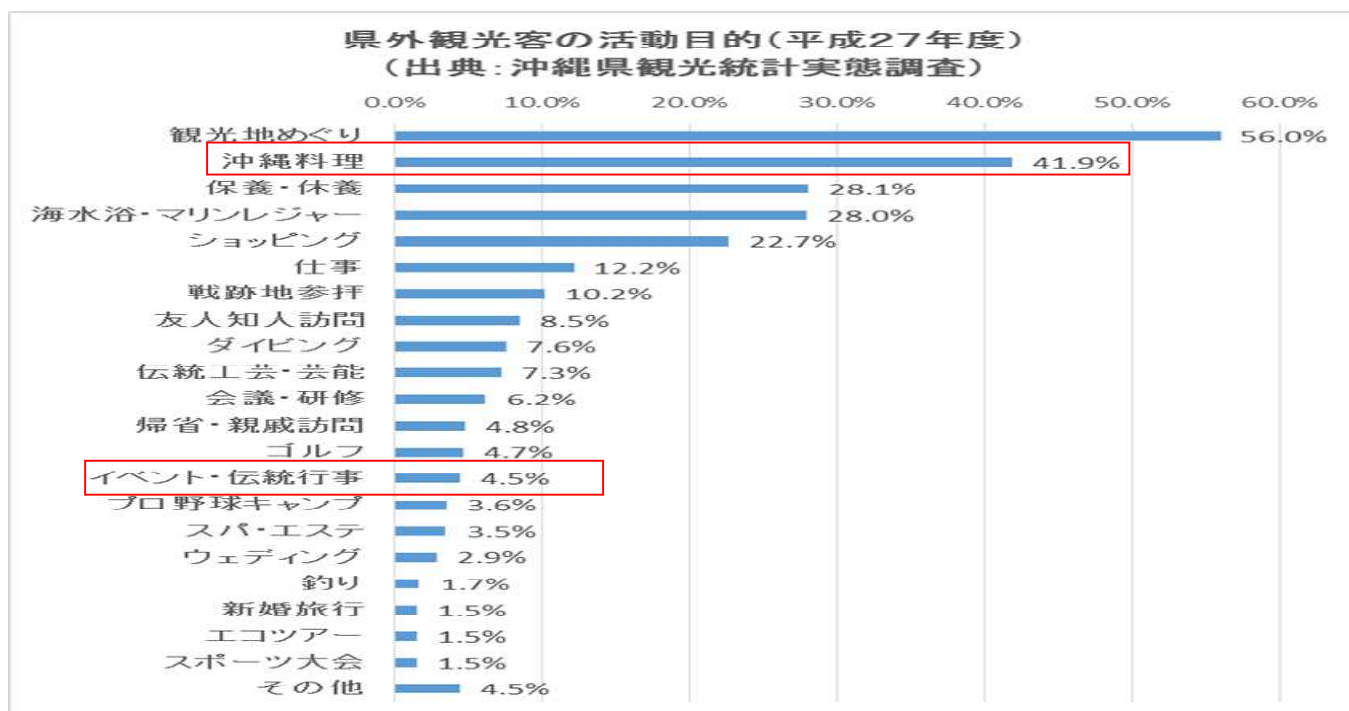
県内観光地やイベント等に出掛ける際の目的は、「観光地めぐり」が41.9%、「保養・休養」が31.8%、「イベント・伝統行事」が25.0%となっています。

県外観光客とでは、沖縄料理（県外が多い）、イベント・伝統行事（県内が多い）といった違いがあります。

(図表3)



(参考)

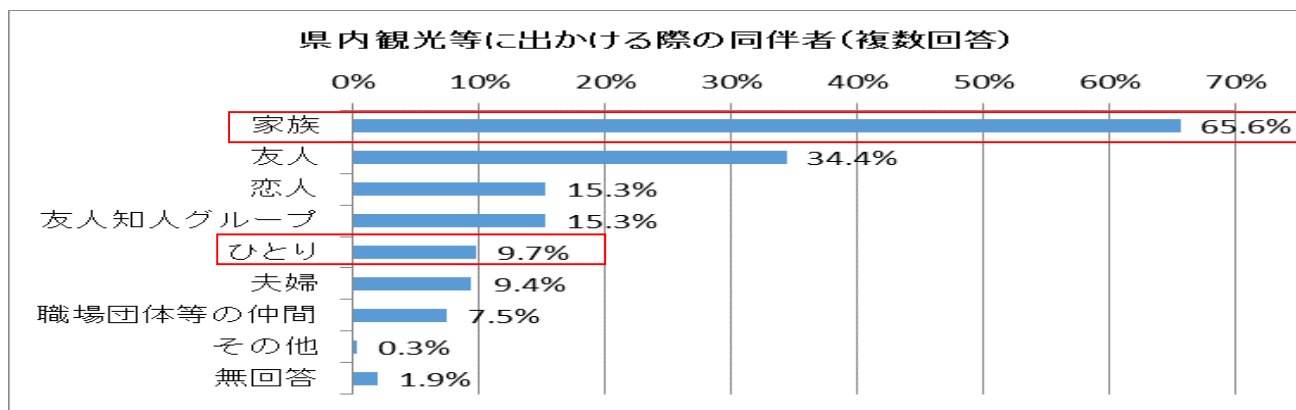


④ 県内観光地やイベント等に出掛ける際の同伴者

県内観光地やイベント等に出掛ける際の同伴者は、「家族」が65.6%、「友人」が34.4%、「恋人」及び「友人・知人」が15.3%となっています。

県外観光客とでは、家族、友人（県内が多い）、1人旅（県外が多い）といった違いがあります。

(図表 4)

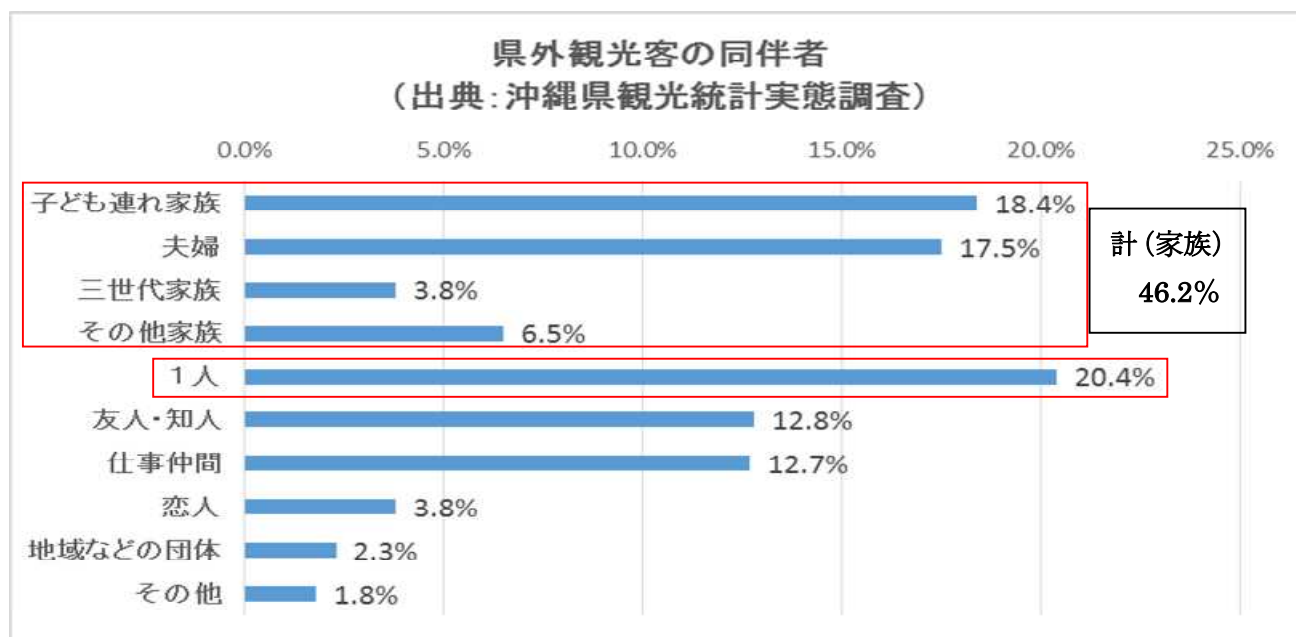


(参考) 回答者数(複数回答)

家族	夫婦	恋人	友人	友人知人グループ	職場団体等の仲間	ひとり旅	その他	無回答	計
202	29	47	106	47	23	30	1	6	491

※家族と答えた方202名のうち、お子様がいる方は109名となっています。

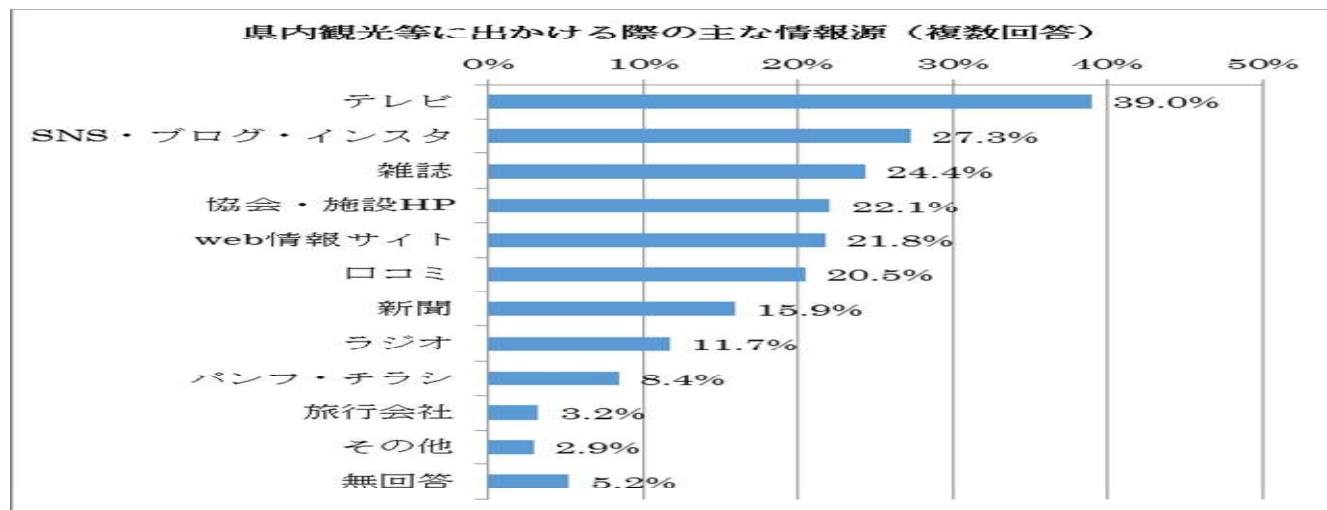
(参考)



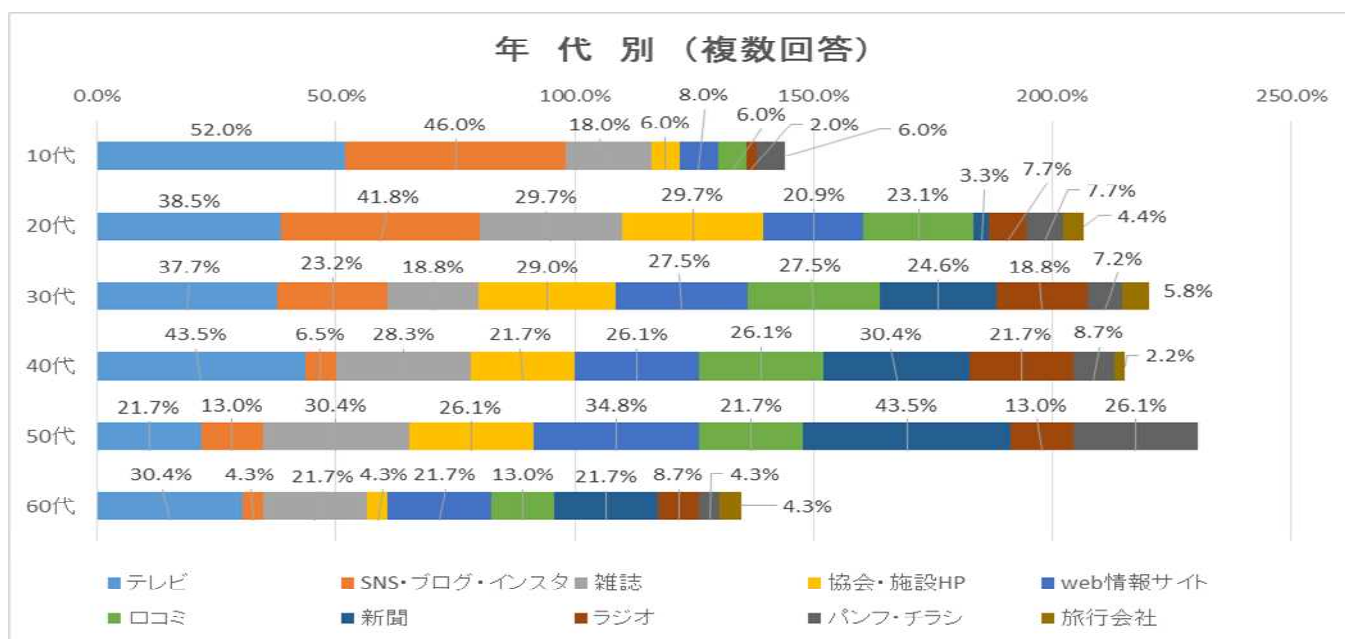
⑤ 県内観光地やイベント等に出掛ける際に主に活用する情報源

県内観光地やイベント等に出掛ける際に、主に活用する情報源は、「テレビ」が39.0%、「SNS・ブログ・インスタグラム」が27.3%、「雑誌」が24.4%となっています。

(図表 5)



(参考) 年代別



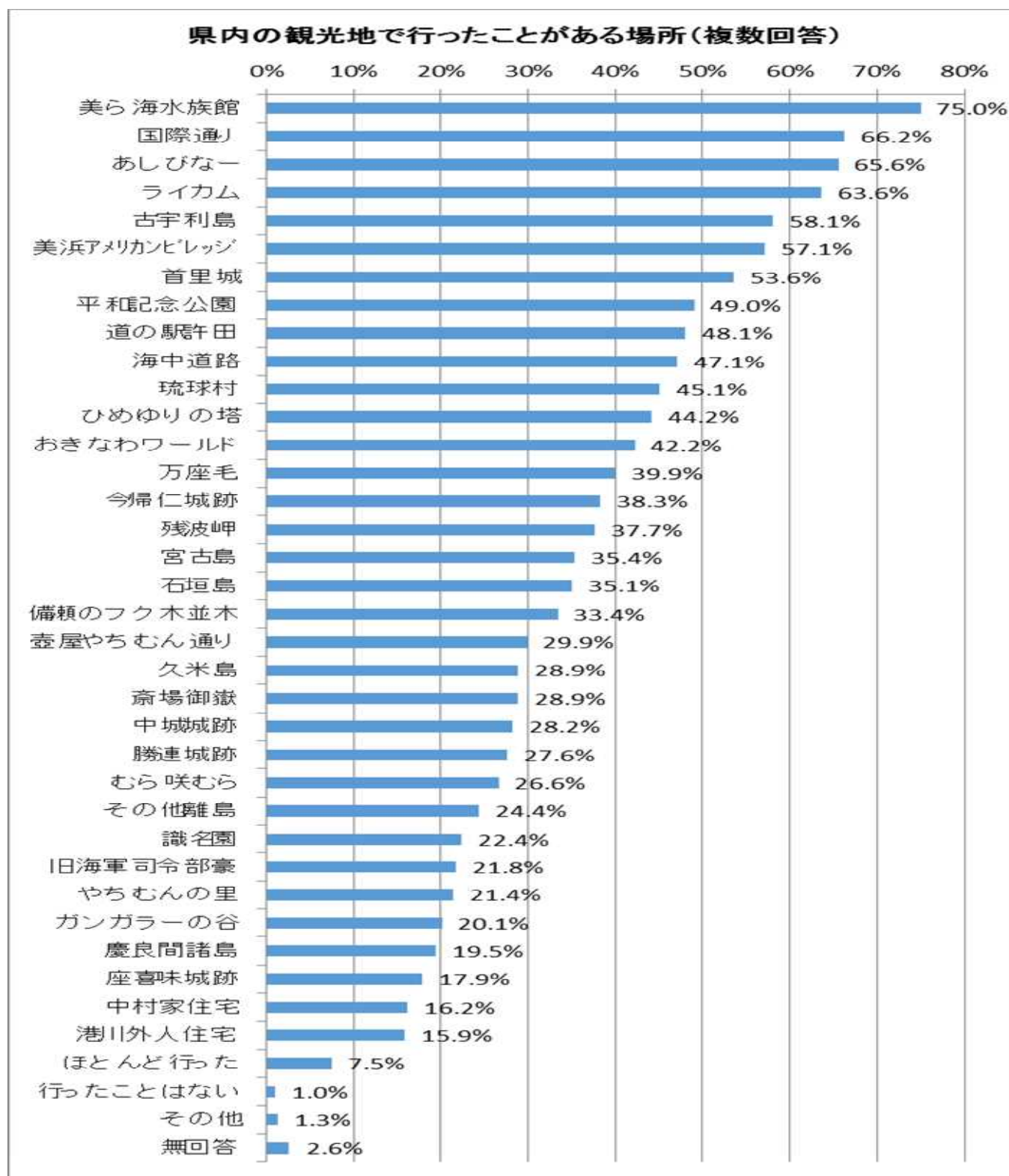
	テレビ	SNS・ブログ・インスタ	雑誌	協会・施設HP	web情報サイト	口コミ	新聞	ラジオ	パンフ・チラシ	旅行会社	回答者数
10代	26名	23名	9名	3名	4名	3名	名	1名	3名	名	50名
20代	35名	38名	27名	27名	19名	21名	3名	7名	7名	4名	91名
30代	26名	16名	13名	20名	19名	19名	17名	13名	5名	4名	69名
40代	20名	3名	13名	10名	12名	12名	14名	10名	4名	1名	46名
50代	5名	3名	7名	6名	8名	5名	10名	3名	6名	名	23名
60代	7名	1名	5名	1名	5名	3名	5名	2名	1名	1名	23名

※複数回答のため各選択の合計と回答者数は一致しない。

⑥ 県内の観光地（観光名所等）で行ったことがある場所

県内の観光地（観光名所等）で行ったことがある場所は、「美ら海水族館」が 75.0%、「国際通り」が 66.2%、「沖縄アウトレットモールあしびなー」が 65.6%となっています。

(図表 6)

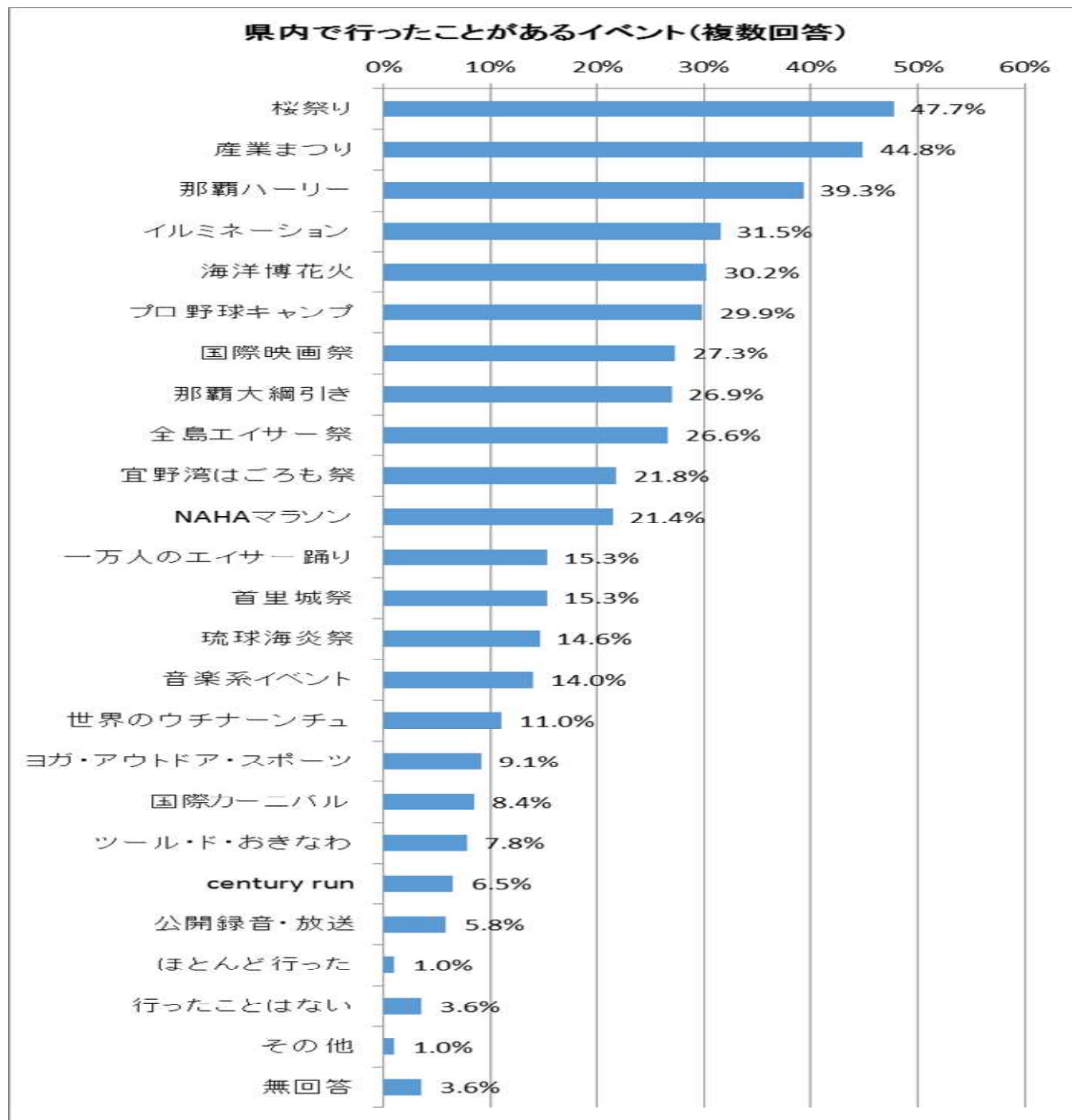


⑦ 県内で行ったことがあるイベント

県内で行ったことがあるイベントは、「桜祭り」が47.7%、「産業まつり」が44.8%、「那覇ハーリー」が39.3%となっています。

※桜まつりは、調査時期及び調査場所によるものと考えられます。

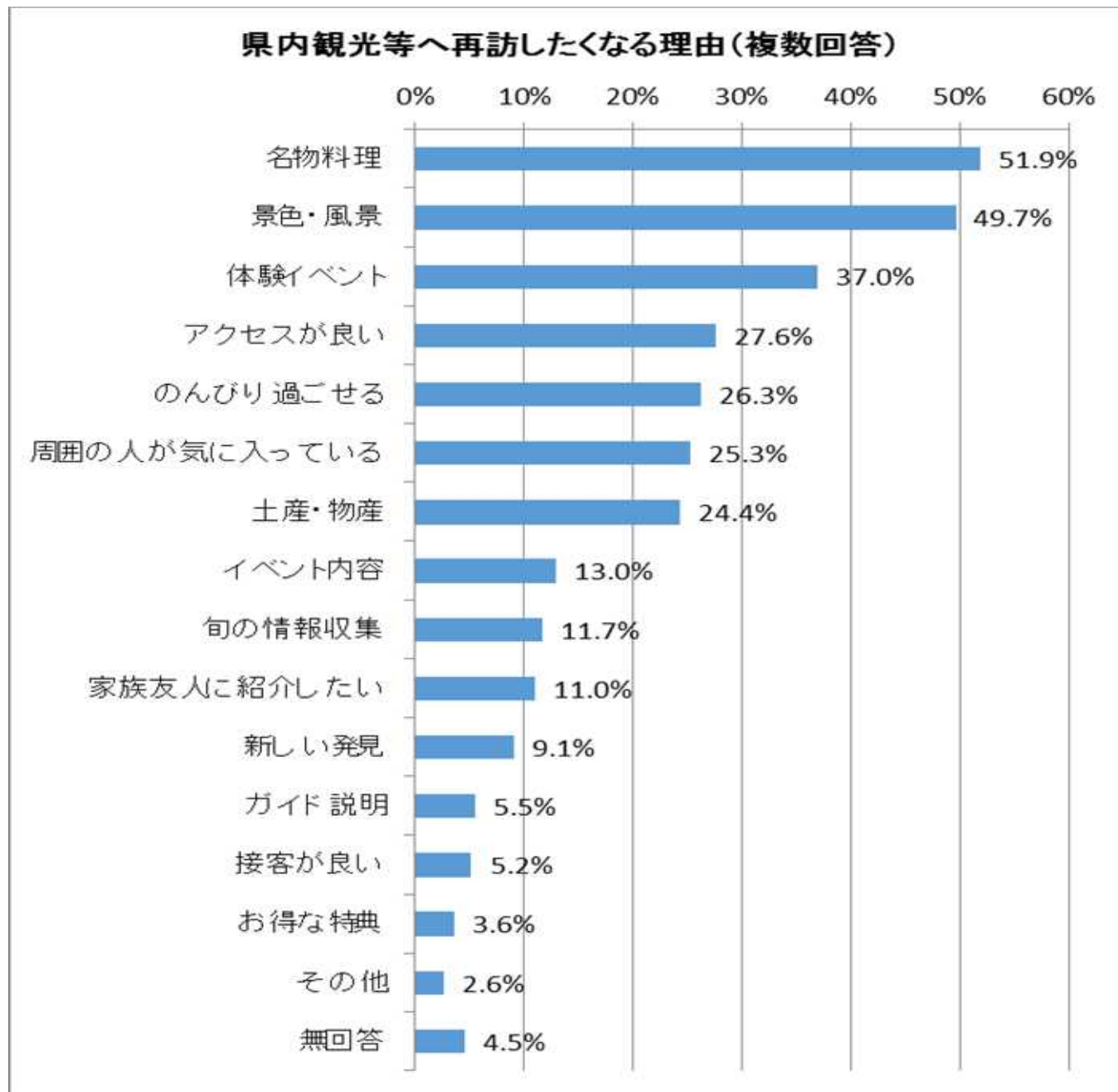
(図表 7)



⑧ 県内観光地やイベント等へ再訪したくなる時の理由

県内観光地やイベント等へ再訪したくなる時の理由は、「名物料理」が 51.9%、「景色・風景」が 49.7%、「体験イベント」が 37.0%となっています。

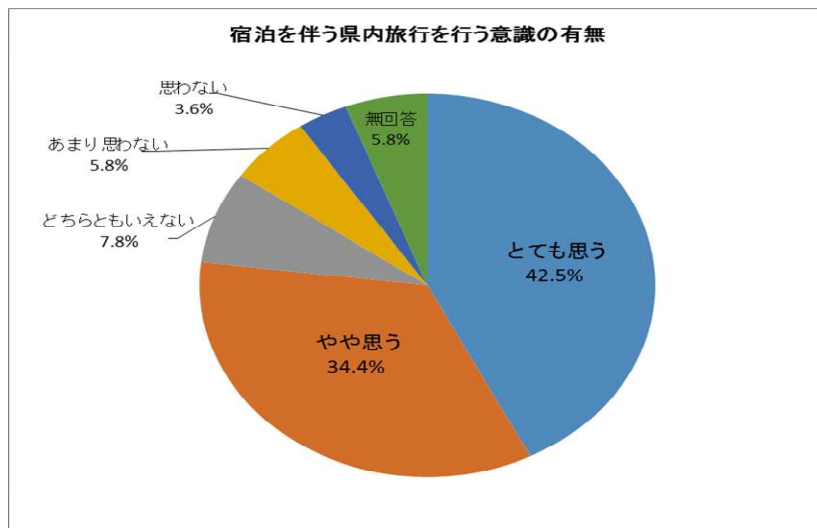
(図表 8)



⑨－１ 宿泊を伴う県内旅行を行う意識の有無

県内観光地やイベント等に出掛ける際、機会があれば宿泊を伴う旅行で出掛けてみたいかは、「(出掛けてみたいと) とても思う」が 42.0%、「やや思う」が 34.0%と合計 76.0%が宿泊を伴う旅行をしてみたいとなっています。

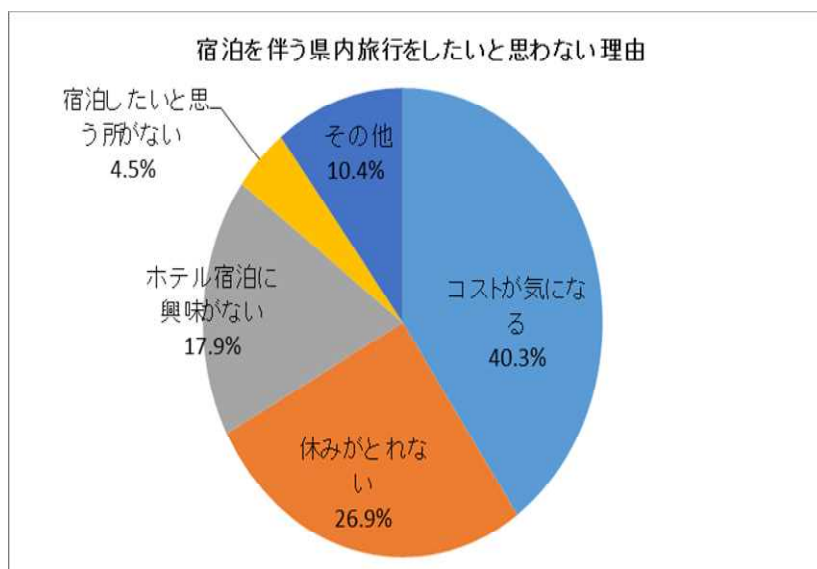
(図表 9)



⑨－２ 宿泊を伴う県内旅行をしたいと「あまり思わない」、「思わない」と回答した方の理由

一方で、県内観光地やイベント等に出掛ける際、「宿泊を伴う旅行では出掛けてみたいとはあまり思わない」が 5.8%、「思わない」が 3.6%と合計 9.4%が宿泊を伴う旅行を望んでおらず、その理由として、「コストが気になる」が 40.3%、「休みがとれない」が 26.9%、「ホテル宿泊に興味がない」が 17.9%となっています。

(図表 10)



⑩ 行ったことがある県内観光地やイベントの中で、特に印象に残っている観光地等の名称とその理由（フリーコメント）

行ったことがある県内観光地の中で、特に印象に残っている観光地は、「美ら海水族館」や「海」、「離島」など自然や景観が美しい場所、また、現地体験プログラムや非日常感が味わえるところが挙げられています。

また、行ったことがある県内のイベントの中で、特に印象に残っているイベントは、「海洋博花火」や「エイサー等の伝統・文化」などイベント内容が充実したもの、また、現地体験プログラムや演出、地域や人との交流があるイベントが挙げられています。

（図表 1 1）

印象に残っている県内の観光地等																	
属性	観光地等の名称	満足度のカテゴリー														備考	
		自然の 美しさ	景観の 美しさ・ 雰囲気 の良さ	ライト アップ 等演出	イベント 内容	飲食 環境	現地体 験プロ グラム	周遊散 策プロ グラム	伝統・ 文化・ 芸能	地域や 人との 交流	子供や 家族と一 緒に楽し める	個人の 趣味に 合う	友人知 人など 周囲の 評価	非日 常感	アクセ スの 良さ		参加しや すい値ご ろ感
観光地等	美ら海水族館	●	●	●	●		●				●	●					イルカショーで大人も子どもも楽しめた、マンタがいる
	青の洞窟(恩納村真栄田岬)	●	●		●								●				スノーケリングが楽しい
	離島	●	●				●							●			キャンプが楽しかった、三年連続で行っている
	備瀬のフクギ並木(本部町)	●	●														
	海中道路(うるま市)	●	●														
	久米島	●	●														
	慶良間諸島	●	●														
	古宇利島(今帰仁村)	●	●														
	瀬長島(豊見城市)	●	●													●	
	知念岬(南城市)	●	●														とても癒される
	21世紀の森ビーチ(名護市)	●	●												●		とても癒される
	やんばる	●	●														
	首里城		●												●		昔ながらの感じが好き
	今帰仁城、勝連城跡		●						●						●		ゆっくり落ち着いて過ごせる
	沖縄科学技術大学院大学(OIST)		●				●						●				見学が楽しい
	伊祖公園(浦添市)		●														穴場でもあること
	豊崎ビーチ				●												様々なイベントがある
	国際通り					●	●										
	平和記念公園						●		●								戦争の歴史を学べる
	こどもの国										●					●	子供が喜ぶから
	地元地域の公園										●					●	素朴で子どもを安心して遊ばせることができる
イベント	各所パワースポット											●					
	海洋博花火、海洋博覧会	●	●	●	●	●							●				友人とともに行動できる良い機会であり、1万発の花火が魅力
	北谷シーポートカーニバル	●	●														海上花火がきれい
	琉球海炎祭		●	●	●												
	首里城祭		●				●		●								
	読谷ランタン祭		●	●	●		●										
	各種イルミネーションイベント		●	●	●												
	ハロウィン美浜		●	●	●												
	沖縄花のカーニバル(空港、海洋博等の県内各地で行われる)		●		●												
	本部八重岳桜祭			●	●	●											沖縄で桜を見られるところが少ない、産業・農業活性化につながる
	離島フェア(那覇市)			●	●	●	●		●								
	音楽イベント			●	●	●						●		●			
	沖縄国際映画祭			●	●					●						●	芸能人がたくさん無料で見られるから
	米軍基地のフェスティバル				●	●	●							●			普段は入れない場所、普段食べれないものが食べれた、戦闘機に乗れる
	那覇祭り				●	●			●	●							出店数の多さ、伝統
	産業まつり(那覇市)				●	●				●							
	エイサー祭(各地域)				●		●		●	●							伝統芸能を大切にしている点が沖縄らしくて良い
	那覇大綱引き				●		●			●							
	やちむん市(壺屋、読谷等)				●		●		●				●				
	プロ野球キャンプ				●		●			●							
	美ら島エアフェスタ(自衛隊フェス)				●		●										
トリムマラソン(南部、中部)				●		●											
沖縄モーターフェスティバル(西原町)				●		●									●		
世界のウチナーンチュ大会				●				●	●								
イチハナリアート(伊計島等)						●			●							大学とのコラボレーション、島巡りがよい	

- ⑪ 行ったことがある県内観光地やイベントの中で、改善してほしいと思う観光地等の属性とその理由について（フリーコメント）

行ったことがある県内観光地の中で、改善してほしいと思う観光地の改善点は、「施設環境整備」や「サービス内容」といったところが挙げられています。

また改善して欲しいと思うイベントの改善点は、「施設環境整備」や「交通アクセス」、「駐車場整備」に関するものが挙げられています。

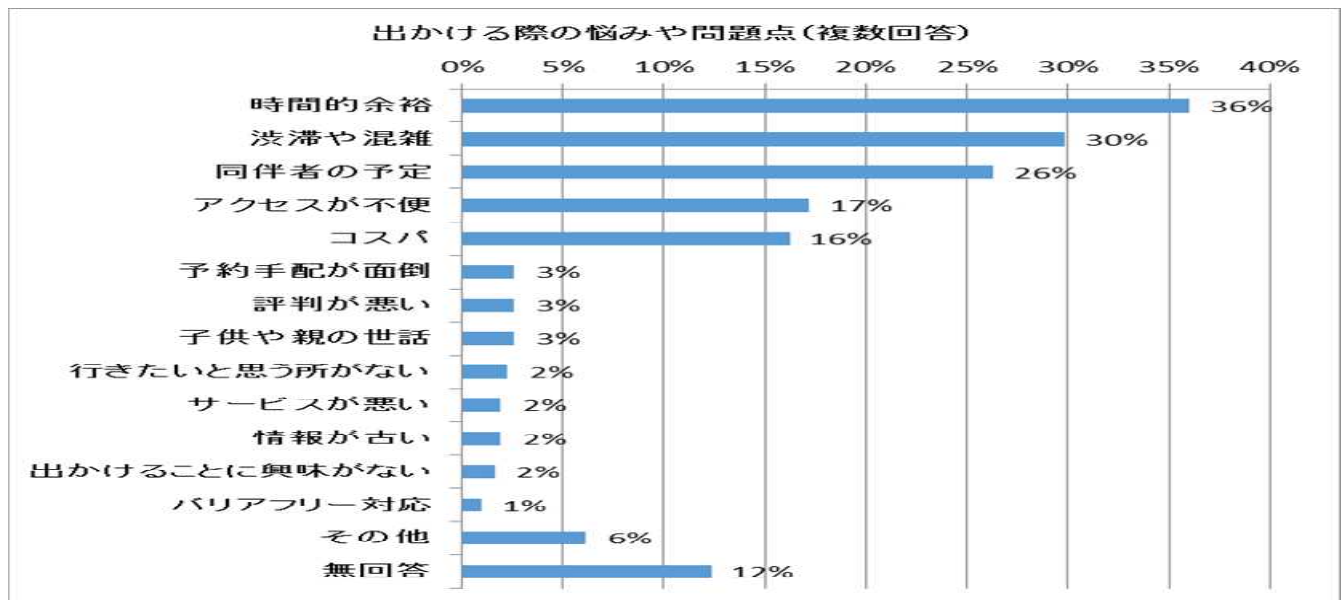
（図表 1 2）

改善して欲しいと思う県内の観光地・イベント									
属性	改善要望のカテゴリー								備考
	施設環境・整備	サービス内容	価格帯	混雑解消	利用案内等	駐車場整備	交通アクセス	県民ニーズの理解	
観光地等	●								荒れている場所があった
	●	●						●	マンネリ化、出店内容が何年も同じ
	●	●						●	地元向けの内容やお店が少ない
	●	●							植物関連の手入れが行き届いていない
	●	●							食事処や食事のメニューが少ない
テーマパーク	●	●		●				●	観光地化し過ぎていて、県民は行きづらい
		●		●					子どもの遊ぶところが少ない、遊具が少ない
商業施設				●		●			渋滞がひどくて大変だった
宿泊施設		●	●						接客やサービスレベルに満足できていない
イベント	●								全体的には良かったが、ゴミの山が残念だった
	●						●		那覇からのアクセスがレンタカーしかない
	●				●				敷地内が広すぎて移動が大変
	●					●			駐車場、トイレの整備
	●				●				屋外でのイベントの場合、寒くて辛かった
	●			●	●				歩行者天国の時間を作ってほしい
	●								ゴミ捨て場が少ない
		●						●	イベントの意味が凡化している
		●				●			駐車場がない、花火の数が期待より少ない
		●	●						参加料金や値段が全体的に高い
			●						値段が高い
			●			●			駐車場料金が高い
				●			●		混雑
						●			駐車場が狭い
							●		渋滞
							●		アクセスが不便
							●		アクセスが難しい

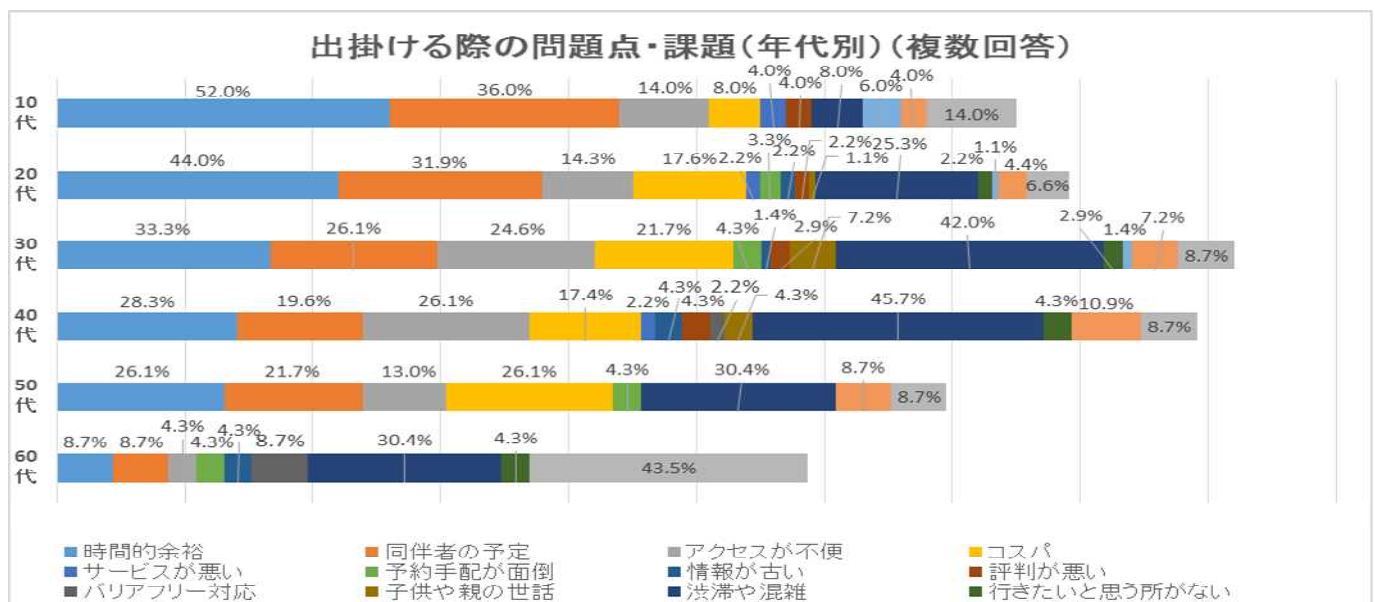
⑫ 県内観光地やイベント等に出掛けようと思う際の悩みや、出掛けることを諦めてしまう理由について

県内観光地やイベント等に出掛けようと思う際の悩みや、出掛けることを諦めてしまう理由は、「時間的な余裕がない」が 36.0%、「渋滞や混雑が苦手」が 29.9%、「同伴者（家族や友人等）と予定が合わない」が 26.3%となっています。

(図表 1 3)



(参考) 年代別

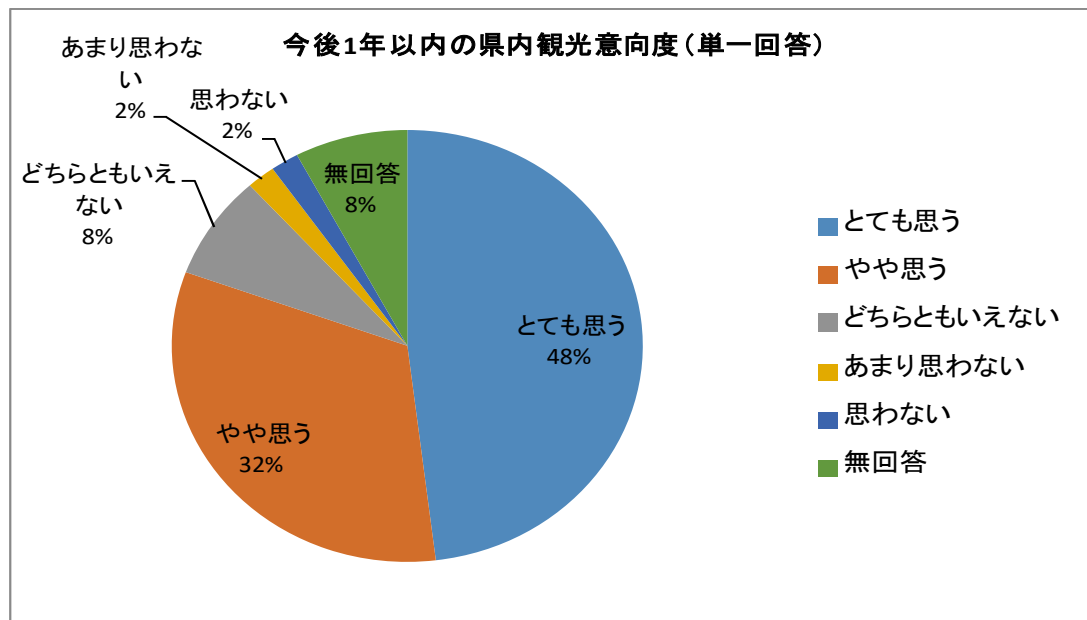


	時間的な余裕	同伴者の予定	アクセスが不便	コスパ	サービスが悪い	予約手配が面倒	情報が古い	評判が悪い	バリアフリー対応	子供や親の世話	渋滞や混雑	行きたいと思う所がない	出かけることに興味がない	その他	無回答	回答者数
10代	26名	18名	7名	4名	2名	名	名	2名	名	名	4名	名	3名	2名	7名	50名
20代	40名	29名	13名	16名	2名	3名	2名	2名	名	1名	23名	2名	1名	4名	6名	91名
30代	23名	18名	17名	15名	名	3名	1名	2名	名	5名	29名	2名	1名	5名	6名	69名
40代	13名	9名	12名	8名	1名	名	2名	2名	1名	2名	21名	2名	名	5名	4名	46名
50代	6名	5名	3名	6名	名	1名	名	名	名	名	7名	名	名	2名	2名	23名
60代	2名	2名	1名	名	名	1名	1名	名	2名	名	7名	1名	名	名	10名	23名

⑬ 今後1年以内の県内観光地やイベント等への参加意向度

今後1年以内に県内観光地やイベント等に出掛けてみたいかは、「とても思う」が48.0%、「やや思う」が32.0%と合計80.0%が出掛けたいとなっています。

(図表14)



(図表15) (フリーコメント)

今後1年以内に出かけてみたいと思う観光地		
久米島	美ら海水族館	県民の森公園
伊江島	斎場御嶽	バス観光があれば良い
離島	万座毛	小さくて新しいところ
ライカム	恩納村	新しい道进行
北部	慶良間諸島	本部町

(図表16) (フリーコメント)

今後1年以内に出かけてみたいと思うイベント		
花火大会	グルメ	NAHAマラソン
食のイベント(例:B1グランプリ)	ホエールウオッチング	沖縄国際映画祭
米軍フェスタ	ライブ、音楽系イベント	マリンフェスタ(宜野湾マリーナ)
イルミネーション	祭り、夏祭り	桜祭り
オートバイフェスティバル	プロ野球キャンプ	ランタンフェスティバル(むら咲むら)
釣り大会	海洋博花火	北部イベントと宿泊(ホテルタイアップイベント)
県内の産業まつり	花のカーニバル	イチハナリアート
琉球海炎祭	モンゴル800のイベント	伊江島のゆり祭り
フォレストアドベンチャー(森林冒険施設(恩納村))		

- ⑭ 現在はあまり知られていない場所等（沖縄らしい、沖縄の良さを感じる等）の紹介
※観光地に限らず。

●沖縄らしさを感じる場所（自然、景観、文化、歴史等）
（図表 17）（フリーコメント）

沖縄らしさを感じる場所（自然・景観、文化・歴史）		
備瀬のワルミ(本部町)	東村つつじ祭り	離島
安田の海(国頭村)	百名ビーチ(南城市)	北部(海、北部の奥)
せんにち屋(那覇市:ぜんざい屋)	平安座(うるま市)	新原(みーばる)ビーチ(南城市)
うるま市宮城島の「ぬちマース」から見える太平洋	辺戸岬	宮古の海
備瀬のフク木並木(本部町)	古民家	本部
首里(首里の石畳)	古宇利島(今帰仁村)	八重岳、八重岳の頂上
伊計島	壺屋	山原(南部のゆったり感)
糸満の海	豆腐屋さん(暖かい豆腐を売っているのは沖縄だけ)	読谷村(やちむんの里)
学校行事(運動会やエイサー等)	名護(自然がきれい)	琉球村
防空壕	名護市字茂佐～屋部のビーチ	歴史関係の施設
ガンガラーの谷(南城市)	知念岬(南城市)	浜比嘉(うるま市)
21世紀の森ビーチ(名護市)	東村の景観(まだ未開拓なところが良い)	久高島(南城市)
慶良間諸島	キラキラビーチ(西原町)	

●地元の人との交流や触れ合いが楽しめるような場所（施設、イベント等）
（図表 18）（フリーコメント）

地元の人との交流や触れ合いが楽しめる場所（施設・イベント等）			
コザミュージックタウン	国際通り、平和通り	泊いゆまち	町の駅
糸満ファーマーズ	離島	道の駅	尚巴志マラソン
伊平屋(ムーンライトマラソン)	居酒屋	豊年祭(各部落)	美浜(サンセット)
エイサー祭り	栄町	那覇大綱引き	首里城祭
介護施設(デイケアセンター)	屋台村	ファーマーズマーケット	漁港
公設市場(那覇)	産業まつり	フリーマーケット	本部(市場や民泊)

●特に女性にお勧めしたい場所（自然、景観、文化、歴史、施設、飲食店等）
（図表 19）（フリーコメント）

女性にお勧めしたい場所（自然・景観、文化・歴史、施設・飲食店等）			
クルクマカフェ(南城市)	久高島(南城市)	ちゅらSUNビーチ(豊崎)	風呂の充実したホテル(ユインチホテル)
EMコスタヴィスタ(北中城村(スパ等))	県内カフェ全般	遊覧船(サンセットクルーズ)	水納島(夏限定)(本部町)
	南部のカフェ	美浜の食べ歩き	ちゅら～湯(北谷(天然温泉))
あしびなー	首里(パンケーキ)	古宇利島(今帰仁村)	FROMO(嘉手納)の手作り石鯛
ガンガラーの谷(ケイブカフェ)	斎場御嶽(南城市)	21世紀の森ビーチ(名護市)	やんばるの森
沖縄の自然	知念岬公園(南城市)	花、海洋博(花のイベント)	おやつ工房(名護市)
リパロ(嘉手納:もつ鍋(古民家))		さとうきび刈り等農業体験	ぬちまーす工場見学(うるま市)
キャプテンカンガルー(名護市:ハンバーガー)	末吉公園(首里)	備瀬フク木並木(本部町)	紅芋たると作り体験
	瀬長島		

(3) 県外観光地への旅行を通して見た沖縄観光の改善点等

県外観光地の良かった（満足した）点、県内観光に取り入れて欲しいと思う点（サービスや商品内容等）（フリーコメント）

これまでに外出掛けて良かったと思った観光地の良かった（満足した）点は、「公共交通機関の便利さ」や「町並みや建築物がテーマを持って統一されている」、「子供が楽しめるサービス内容」、「環境整備の充実」等が挙げられています。

県内観光に取り入れて欲しい点やサービス・商品内容としては、「自然環境や伝統文化を生かした魅力づくり・情報発信」や「環境整備」、「子供が楽しめる施設・サービスの充実」等が挙げられています。

(図表 20)

属性	県外観光地名称	良かった点	県内観光に取り入れて欲しい点
観光地	北海道	大自然、雪まつり、スキー	自然を活かす点、魅力づくり
	金沢(石川県)	兼六園	満開の花が楽しめる場所を増やしてほしい
		着物のレンタルができた	琉装をもっとカジュアルにしたものとかがあってもいい
	草津温泉(群馬県)	町を歩いて観光できた	歩きながら道沿いの店や温泉に行けるなど導線づくりの工夫
	横浜(神奈川県)	公共交通機関が便利	公共交通機関の便利さ
		レンタルサイクリング(至る所に専用の駐車場があって使いやすい)	レンタルサイクリングの整備、サービスの充実
	中華街(神奈川県)	中華料理がおいしかった	歩いてショッピングできる街並み
	京都	竹林、文化、渡月橋、清水寺、唐戸市場	景色を活かしてほしい
		街並みや建築物等がテーマをもって統一されている	観光地はどれも似たような雰囲気があるから、もっと個性を出してほしい
		町を散策するだけで楽しい(歴史的景観等)、歴史を感じるところ	観光客が車でなく徒歩で周遊できるような街づくり
		沖縄にない文化、寺など、のんびりできた	ガイドの育成、充実
	奈良	町屋作りの有効利用	笑顔
		寺、神社、街並み、街の雰囲気	土産品の充実、もっと種類を増やしてほしい
		庭の手入れがきれいで清々しい	清々しくなるような庭、手入れの行き届いた庭や施設
	大阪、通天閣(大阪府)	食べ物がおいしい、安い、アクセスの良さ	地域のものづくり体験(子どもが楽しめる)
テーマパークや観光・商業施設	神戸(兵庫県)	子どもが喜ぶ	子どもが喜ぶような場所を増やしてほしい
	福岡(福岡県)	食べ物がおいしい、街を見て回るのがちょうどいいサイズ	観光地化され過ぎない工夫
		観光地の多さとご飯の美味しさ	
		屋台村	値段、屋台村の充実
	軍艦島(長崎県)	老朽化施設でも観光の魅力を感じる	廃墟の整備、施設の老朽化対策等
	ディズニーランド	サービスやスタッフの気遣いを感じる	スタッフの笑顔
		非日常感	エンターテインメント性の高さ、大人が楽しめるテーマパーク
		全ての場所で満足	きめこまやかなサービス
		ベビーカーでも通りやすい、歩きやすい、スケールが大きい	トイレの混雑解消、歩きやすい道づくり
		子どもが遊べる	子どもが遊べる場所をもっとつくってほしい
	キッザニア	子どもが楽しめる、教育にも良い	子どもが楽しめて、教育にも良い施設
	国技館(東京都)	アクセスが良い、伝統	空手館の設立、増加

(4) 県内に訪れる外国人観光客に関する意識等

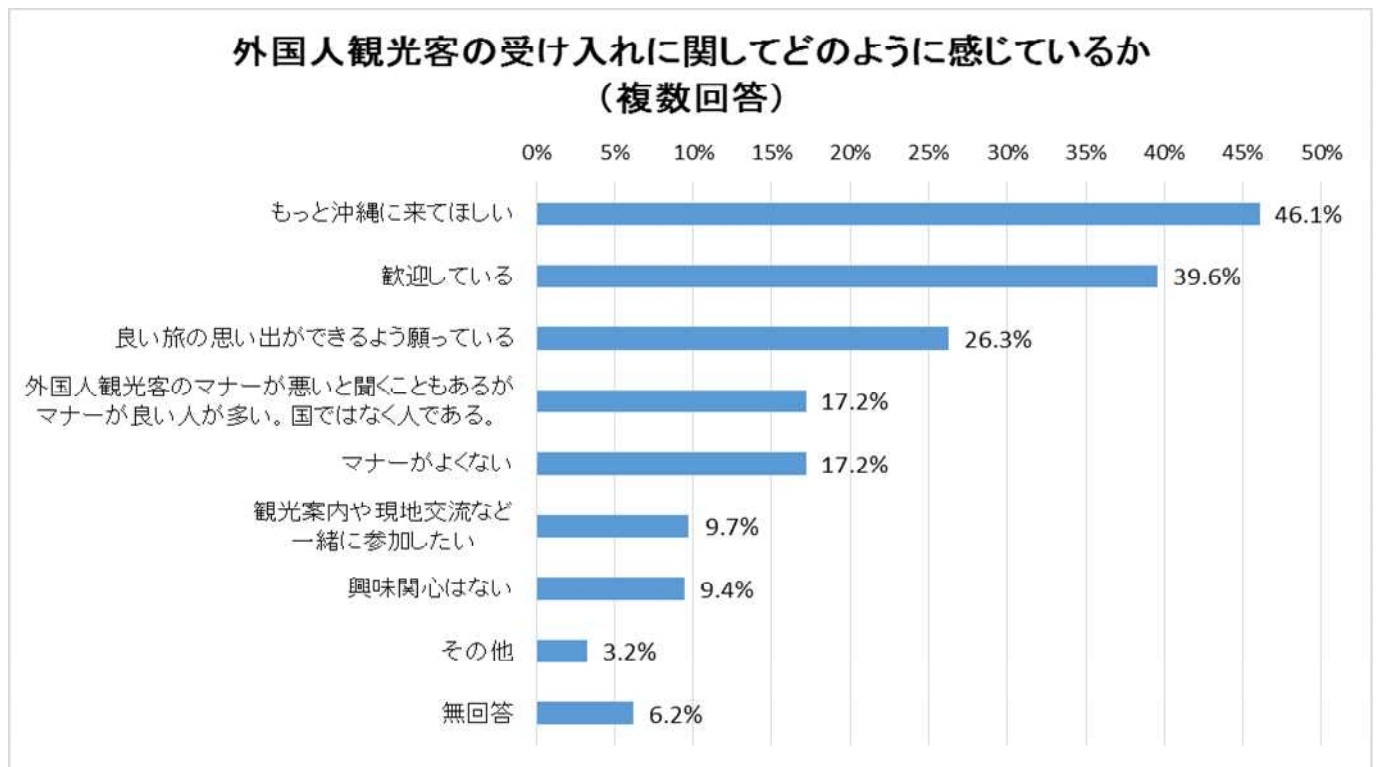
① 外国人観光客の受入に関してどのように感じているか。

沖縄への外国人観光客も年々増えており、今後も増加傾向にあると考えられますが、外国人観光客の受入に関してどのように感じているかは、「もっと沖縄に来てほしい」が 46.1%、「歓迎している」が 39.6%、「沖縄で良い旅の思い出ができるよう願っている」が 26.3%となっています。

またそれらを含む、外国人観光客の受入に関しての好意的な回答票数は、全回答総数 539 票中、79.4%を占める割合となっています。

一方、「マナーが良くない」と回答した人も全体の 17.2%ありますが、「マナーが良い人が多い。国ではなく人である。」と回答された方も同じ 17.2%となっています。

(図表 2 1)



(参考) (複数回答)

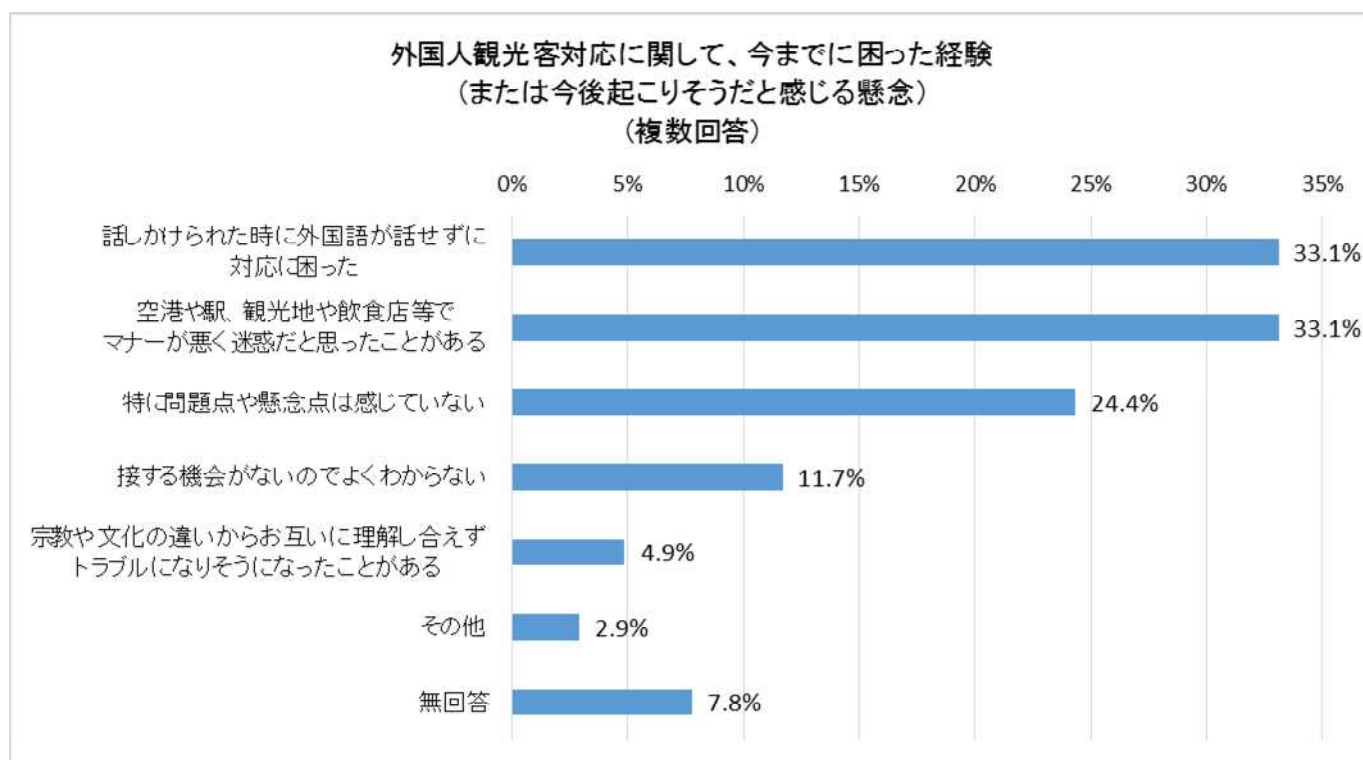
もっと沖縄 に来てほ しい	歓迎して いる	良い旅の 思い出が できるよ う願って いる	マナーが 良い人が 多い。国 ではなく人 である。	マナーが よくない	観光案内 や現地交 流など一 緒に参加 したい	興味関心 はない	その他	無回答	計
142名	122名	81名	53名	53名	30名	29名	10名	19名	539名

② 外国人観光客への対応に関して、今までに困った経験（または今後起こりそうだと感じる懸念点）

外国人観光客への対応に関し、今までに困った経験（または今後起こりそうだと感じる懸念点）は、「道案内等話しかけられた時に外国語が話せずに困ったことがある（または困りそうだと感じている）」が 33.1%、「空港や駅、観光地や飲食店等でマナーが悪いと感じたことがある（または今後感じる懸念がある）」33.1%となっています。

一方で、「特に問題はない（またはなさそう）」が 24.4%、「よくわからない」が 11.7%となっています。

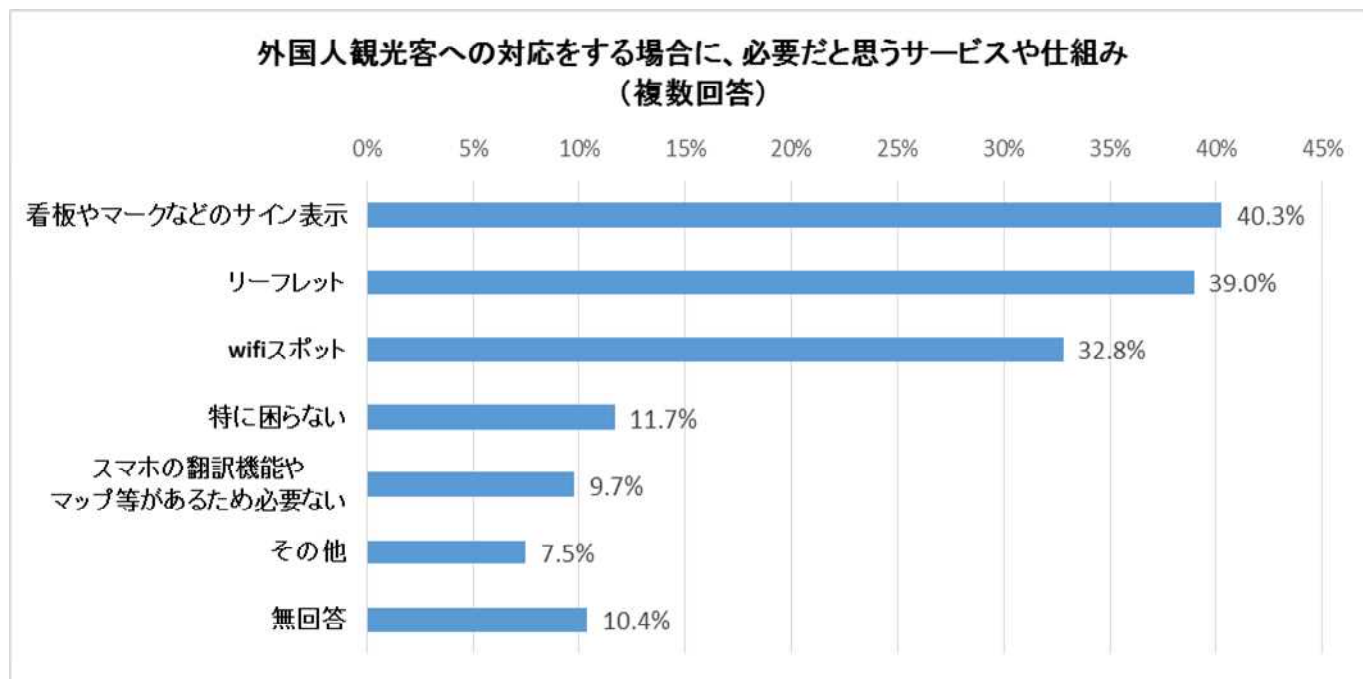
（図表 2 2）



③ 今後、県民が外国人観光客へ対応する場合に、あると良い、または必要だと思われるサービスや仕組みについて

今後、県民が外国人観光客をもてなすに当たって、あると良い、または必要だと思われるサービスや仕組みは、外国語対応が可能な飲食店やホテル、観光施設等への分かりやすい「看板やマークなどの表示」が 40.3%、簡単な挨拶や道案内の方法等が書かれた「リーフレット等」の配布・整備が 39.0%、外国人観光客が自ら自由に web で検索できるように、県内の「wifi 環境の整備（強化）」が 32.8%となっています。

(図表 2 3)



4. ヒアリング調査結果

アンケート調査を踏まえ、県民の県内観光動向の現状や課題について、訪日外国人観光客の受入に関する意識や課題など、より状況を把握すべく、県内の観光事業者及び観光メディア事業者、観光市場動向に知見を有する有識者に対しヒアリング調査を実施しました。

(1) ヒアリング概要

ヒアリング対象	主なヒアリング内容
県内観光事業者	<ul style="list-style-type: none">・ 県内観光客の動向について・ 県内観光需要促進における具体的な取組み・ 地域と連携した着地型商品の造成について
県内観光メディア事業者	<ul style="list-style-type: none">・ 県内観光のトレンド、ユーザー動向について・ 県内観光需要促進のための動機付けと課題・ 訪日外国人観光客の受入に関して
有識者	<ul style="list-style-type: none">・ 県民の県内観光に関する意識、動向について・ 訪日外国人観光客の受入体制整備について・ 今後の沖縄観光需要促進ための取組み

(2) ヒアリング調査結果

①県内観光事業者

1) 調査結果をふまえての感想及び現状認識

当ホテルでもアンケートを実施し、その結果、県内需要の比率が想像以上に高かったと記憶しており、個人のお客様で5回以上のリピーターの方も多くいらっしゃいました。当ホテルを選んでくださる理由として考えられるのは、自然環境や立地の良さもありますが、何よりも観光で訪れる県内外の知り合いのために、地元の皆さんが自信をもってお勧めしてくれるからだと思っています。

当ホテルの客層は幅広く、スポーツ選手、地元住民の皆さん、ビジネス利用のリピーター、ウェディング関連、冬季のロングステイ企画商品ではシニア層の需要も多く、長い方で25年のリピートを頂きお客様同士のコミュニティも生まれています。何方でも利用しやすいイメージづくりや、ビジネス客向けや観光客向けなどと色を付けない演出、さらにシニア向けウォーキングプランや滞在型商品の開発等を地域の皆さんと一緒にやるなど、人の繋がりやリピーターのお客様を大切に地域に貢献できるように心がけています。

2) 県内観光需要を促進するための現状課題について

県民向け割引プランの設定や平日プランの造成にも取り組んでおり、県内移動の利便性向上や渋滞解消にも繋がればと思っています。

県内観光需要を促進するためには、地域との共生、地域の課題を解決するための商品づくりを推進していくことが重要であると思います。当社は地域にとっての「公民館」のような存在、コミュニティホテルを目指しており、県内外の観光客だけではなく、地域の方にとって使いやすいと思って頂ける仕掛けづくりをしています。またホテルの中だけにいると外（観光客の市場や地域の状況など）の情報が入ってこないで、地域の中に積極的に出かけ、地域と県内外の他の市場やお客様とを繋ぐ役割を担い、地元で愛され続ける企業になりたいと思っています。

3) 県内観光需要を促進するための提案

観光商品は「売れるまで」が難しいと思います。お客様に一定の評価を頂くまで、繋げること、継続すること、地域を巻き込んでいくことが大事であり、県外から移住して地域で頑張っている方々をも巻き込んでいくのが重要であると思います。定期的にハード面のリノベーションも行っていますが、ソフト開発や地域密着の想いで続けていくことがより大切であると考えています。地域全体で、「観光」を商売として捉えること、盛り上がるがすぐ去るものであり浮き沈みがある業界と捉えずに取り組んでいけるかどうか重要なポイントだと思っています。

商品開発においては、「食べる」「観る」「買う」の視点を意識しています。例えば、地域に出かけて行うツアーや地元の方とふれあえるフェスタなど、宿泊客以外の取込みや来やすい仕掛けづくりを地域連携のもと造成しています。また近隣飲食店で使えるチケット付の宿泊プランを造成したり、地元素材を使った食事メニューの開発、地元業者とのタイアップ企画の造成に取り組んできました。今では地域の皆さんからも集客や販売促進等の相談を頂く機会もとても増えています。ホテルの強みと地域の強みを生かし、ホテルにないものは地域で調達するなど、地域の皆さんの協力を得て観光商品を開発していける体制は、地域ならではの商品を開発していくためにもとても重要なことだと思っています。

“旅行”ではなく、県民の“出かける”目的を創ることや、宿泊以外の動機付け（食べる・観る・買う）を行うことが大切であり、地域からアイデアが集まる仕組みを構築することで、県内域内の観光需要も促進できるのではと思います。

4) 訪日外国人客の受入に関して

中国・香港・台湾からの観光客が多く、最近では特に韓国からの観光客が増えています。予約のリードタイムは長く早期予約が多くなっているため、日本人観光客の繁忙期と重なる時期のコントロールには配慮するよう留意しています。

また文化や風習の違いから起因していると思われる課題もあります。例えば朝食の原価率が上がってしまうことや、客室清掃における対応などが挙げられます。訪日外国人観光客が増えることは嬉しく思っていますが、きめ細かな受入体制の整備や外国からのお客様だけに頼り過ぎないような経営戦略などにも配慮していきたいと思っています。

②県内観光メディア事業者

1) 調査結果をふまえての感想及び現状認識

県内宿泊経験に関する調査結果は、当社サイトの動向と比較するとやや少ないと感じます。属性や移住経験有無に依っても県内観光動向の違いがあるのではと考えられます。アクセスや予約数などが増加するのはやはり週末の土曜日が最も多くなっていますが、平日でも低価格の宿泊プランなどが供給されるとお休みをとって観光にでかけている動向も窺えるなど、あまりお金のかからない遊びが人気のようです。バーゲンセール企画などを掲載すると非常にアクセス数も増え、多い日では1日に5,000件の予約が入ることもあります。

最近のトレンドとしては、食のイベントや県内で初開催といった新しく話題性のあるイベントが人気のようです。慣れている場所でも新しい仕掛けがあると出かける人も増える傾向にあります。北部リゾートホテル等へのリピート率も高く、家族で毎年同じ日に同じホテルやレストランに出かけるなど、記念日等のアニバーサリー需要も高いと考えられます。

2) 県内観光需要を促進するための現状課題について

琉球海炎祭の場合、那覇から宜野湾まで定期船を運航する企画も実施していますが、渋滞なく目的地まで行けるのでとても人気があります。船やバス等県内の二次交通との連携や目的地までの移動手段を工夫できるともっと出かけやすくなると思います。

また現地滞在時間の延長を促進できるような、24時間ステイなどの宿泊プラン造成が進むことで、利用者の移動時間帯を分散させ渋滞を回避するなど、利用しやすくなるような仕掛けづくりが必要だと考えています。

3) 県内観光需要を促進するための提案

ソフトコンテンツの開発は今後も必要だと思っており、特に食系のイベントは人が動きやすくなっていると思います。ホテル宿泊の傾向は家族向け2食付きプランが最も多く売れており、カップルのデート利用等はまだまだ少ない傾向ですが、値ごろ感やお得感を感じるプラン程よく売れています。今後はグランピング等の予約も増えるのではと思いますので、ホテル滞在の楽しみ方や過ごし方などをさらに提案していきたいと考えています。

また県外観光客の観光案内に同伴して県民が観光に出かける場合も多いので、現地ローカスポットの情報や、県外観光客に喜ばれる地元の人と触れ合えるプログラムなどの情報発信を増加させることで、さらに県内需要を増やしていけるのではと思います。

4) 訪日外国人客の受入に関して

沖縄の文化や習慣に関する理解促進、マナー改善などを啓蒙し、訪日外国人観光客の受入を促進していきたいと考えています。地元住民の理解を得ながら、沖縄の良さを感じてくれる外国人観光客を積極的に迎え入れていきたいと思っています。

③県内有識者

1) 調査結果をふまえての感想及び現状認識

今回の調査結果をふまえ、今後もっと県民の皆さんが出かけたくなるような機会を増やせる取り組みが必要と感じています。またグランピングやレストランバスなどの新しい観光商品の発信や県民の皆さんに「旅の魅力を発信する」イベントを通して、気運醸成及び促進しながら、併せて出かけづらいと感じていることや課題の解決策を行うことが必要ではないかと思います。

2) 県内観光需要を促進するための現状課題について

渋滞解消などを含むアクセスの利便性を高めることも重要ですが、駐車場の有無や駐車スペースの確保など車移動を考慮した現地での整備がしっかりできているとより出かけやすくなると思います。またホテルでは、日帰り利用だけではなく、夜や朝の滞在プログラムを開発するなど宿泊したくなるような仕組みづくりも重要であり、ホテル外の事業者等と連携したプログラムの用意ができるとさらに良いのではと感じています。

3) 県内観光需要を促進するための提案

やんばるや離島などへのアクセスも便利になり、今後も県内観光客が増加する可能性は高いと思いますが、日帰りではなく夜間や朝のコンテンツを絡めることで宿泊客を促進するための仕掛けが必要ではないかと考えます。

県内観光の意義としても、国内外からの観光客を迎える沖縄県民自身が、自ら旅をすることで、よりもてなしの心や手法について理解を深めることも重要だと思っています。日本国内はもちろん海外から訪れる観光客を「うとういむち(おもてなし)」の心で温かく迎え入れる沖縄県民の育成のため、「ウェルカムんちゅ」人材の育成にも力を入れる必要があります。

また屋外キャンプやアウトドアプログラム、スポーツツーリズムについても今後促進する必要があると思っています。プロ野球のキャンプ地としても有名な沖縄では、プロ野球チームと触れ合うことで、地元野球チームのコーチにとってもプロの指導法を学ぶことが出来、子供達の技術向上にも繋がっていると感じています。県内の気候を生かした各種スポーツとの組み合わせを行っていくことで、観光事業のメリットだけに留まらず県内企業や地元住民にとってのメリットも非常に高いのではと考えられます。

さらに新規性、話題作りの必要性も感じており、海外の先進地やトレンドに関する情報収集を行い、外部の視点を取り入れたマーケティング、沖縄ならではの海洋資源を生かした楽しみ方を造成し続けていくことも重要であると考えます。県民の皆さんに出かけてみたいと思って頂く観光施策づくりのためには、海外や県外の新しい視点や視線を生かして、既存商品を磨くことが大切であると思います。

4) 訪日外国人客の受入に関して

歓迎モードの県民が多い調査結果は非常に嬉しく感じています。外国人観光客が増えることで沖縄県内の経済効果も高まり域内消費額の増加なども期待できるため、沖縄の文化

や習慣、マナーなどへの理解を深めるためのマナーブック等の支援ツールの作成や、外国人観光客の満足度向上のためにハードやソフトの整備、多言語対応の強化など併せて進めていく必要があると考えています。

5) 今後の沖縄県全体の観光課題について

2020年のオリンピック、パラリンピック選手団の事前合宿等の誘致・招聘なども視野にいれ、海外のプロスポーツ選手や富裕層、観光経験レベルの高い目の肥えた方々をどうもてなしていくかも課題であると感じており、引き続き観光人材の育成が必要であると考えています。

「そこに行かなければ出来ない体験」を創造することや、沖縄県民のうちなんちゅ精神や文化なども重要な観光資源として捉えて頂けるような情報発信の工夫など、県内におけるバーティカル指向での連携強化による多様な選択肢を増加させ、世界水準の観光地、高付加価値観光を目指していく必要があると考えています。

Ⅲ. 本調査のまとめと今後の展望

県民の県内観光に関する知識を深めるための方策、県内観光の促進、観光に関する改善に寄与するための調査を行い、他県内の観光事業者及び観光メディア事業者、観光市場動向に知見を有する有識者に対しヒアリング調査を実施したところ、次のような結果が得られました。

1. 調査結果まとめ

(1) アンケート調査結果のまとめ

●過去1年以内の旅行経験

- ・県内日帰り旅行は、「あり」が46.4%、「なし」が49.0%
- ・県内宿泊旅行は、「あり」が36.0%、「なし」が59.4%
- ・県外旅行は、「あり」が46.4%、「なし」が49.0%
- ・海外宿泊は、「あり」が15.9%、「なし」が79.2%

●県内観光やイベント等に出掛ける際のきっかけ

- ・「リフレッシュ（のんびりしたい）」が39.0%
- ・「休暇・連休等時間に余裕がある時」が36.4%
- ・「家族サービス」が30.5%

●県内観光やイベント等に出掛ける際の目的

- ・「観光地めぐり」が41.9%
- ・「保養・休養」が31.8%
- ・「イベント・伝統行事」が25.0%

●県内観光やイベント等に出掛ける際の同伴者

- ・「家族」が65.6%
- ・「友人」が34.4%
- ・「恋人」「友人・知人」が15.3%

●県内観光やイベント等に出掛ける際に主に活用する情報源

- ・「テレビ」が39.0%
- ・「SNS・ブログ・インスタグラム」が27.3%
- ・「雑誌」が24.4%

●県内の観光地（観光名所等）で行ったことがある場所

- ・「美ら海水族館」（75.0%）
- ・「国際通り」（66.2%）
- ・「沖縄アウトレットモールあしびなー」（65.6%）

●県内で行ったことがあるイベント

- ・「桜祭り」（47.7%）
- ・「産業まつり」（44.8%）
- ・「那覇ハーリー」（39.3%）

※桜祭りは、調査時期及び調査場所によるものと考えられます。

●県内観光やイベント等へ再訪したくなる時の理由

- ・「名物料理」(51.9%)
- ・「景色・風景」(49.7%)
- ・「体験イベント」(37.0%)

●宿泊を伴う県内旅行を行う意識の有無

機会があれば「宿泊を伴う旅行で出掛けてみたいととても思う」が42.0%、「やや思う」が34.0%と合計76.0%が宿泊を伴う旅行をしてみたいと感じている。

「宿泊を伴う旅行では出掛けてみたいとはあまり思わない」が6.0%、「思わない」が4.0%と合計10.0%が宿泊を伴う旅行を望んでいない。

●特に印象に残っている観光地等やイベントの名称

- ・「美ら海水族館」や「海」「青の洞窟」「離島」など自然や景観が美しい場所
- ・現地体験プログラムや非日常感が味わえるところ
- ・「海洋博花火」や「離島フェア」「沖縄国際音楽祭」「米軍キャンプ地のイベント」
- ・現地体験プログラムや飲食環境の充実、伝統・文化・芸能に関するイベント

●改善してほしいと思う観光地等やイベントの改善点

- ・改善してほしいと思う観光地等の改善点
「施設内の環境整備」や「サービス内容」、「混雑解消」
- ・改善してほしいと思うイベントの改善点
「施設内の環境整備」や「交通アクセス」「駐車場整備」

●県内観光地やイベント等に出掛けようと思う際の悩みや諦めてしまう理由等

- ・「時間的な余裕がない」が36.0%
- ・「渋滞や混雑が苦手」が29.9%
- ・「同伴者（家族や友人等）と予定が合わない」が26.3%

●今後1年以内に県内観光地やイベント等に出掛けてみたいかについて

「とても思う」が48.0%、「やや思う」が32.0%と合計80.0%が出掛けたいと回答

●県外観光地の良かった（満足した）点且つ県内観光に取り入れて欲しいと思う点

- ・「自然環境や伝統文化を生かした魅力づくり・情報発信」
- ・「環境整備」
- ・「子供が楽しめる施設・サービスの充実」
- ・きめ細やかな心遣いや笑顔など、おもてなしレベルの向上

●外国人観光客の受け入れに関してどのように感じているか。

- ・「もっと沖縄に来てほしい」が46.1%
- ・「歓迎している」が39.6%
- ・「沖縄で良い旅の思い出ができるよう願っている」が26.3%

・「マナーが良い人が多い」と「マナーが良くない」が同数 17.2%

●外国人観光客への対応に関して、今までに困った経験（又は今後起こりそうだと感じる懸念点）

・「道案内等話しかけられた時に外国語が話せず困ったことがある（または困りそうだと感じている）」が 33.1%

・「空港や駅、観光地や飲食店等でマナーが悪いと感じたことがある（または今後感じる懸念がある）」33.1%

・「特に問題はない（またはなさそう）」が 24.4%

・「よくわからない」が 11.7%

●今後、県民が外国人観光客へ対応する場合に、あると良い、又は必要だと思われるサービスや仕組みについて

・「外国語対応が可能な飲食店やホテル、観光施設等への分かりやすい看板やマークなどの表示」が 40.3%

・「簡単な挨拶や道案内の方法等が書かれたリーフレット等の配布・整備」が 39.0%

・「外国人観光客が自ら自由に web で検索できるように、県内の wifi 環境の整備（強化）をする」が 32.8%

（2）ヒアリング調査結果のまとめ

●調査結果をふまえての感想及び現状認識

- ・県内宿泊経験に関する調査結果は、サイトの動向と比較するとやや少ない印象
- ・属性や移住経験有無に依っても県内観光動向の違いがあるのでは
- ・アクセスや予約数などが増加するのはやはり週末の土曜日が最も多くなっている
- ・平日でも低価格の宿泊プランなどが供給されると休みをとって出掛ける傾向
- ・あまりお金のかからない遊びが人気
- ・食のイベントや県内で初開催といった新しく話題性のあるイベントが人気
- ・慣れている場所でも新しい仕掛けがあると出かける人も増える傾向
- ・北部リゾートホテル等へのリピート率も高く、記念日等のアニバーサリー需要も高い
- ・各地域の観光情報等について、認知度を高める施策やきっかけ作りの場をより提供していく必要がある。

●県内観光需要を促進するための現状課題について

- ・県内移動の利便性向上や渋滞解消等含むアクセスの利便性を高めること
- ・駐車場の有無や駐車スペースの確保など車移動を考慮した現地での整備
- ・夜や朝の滞在プログラムを開発する等、宿泊したくなるような仕組みづくり
- ・ホテル外の事業者等と連携したプログラムの用意
- ・地域との共生、地域の課題を解決するための商品づくりを推進していくこと

●県内観光需要を促進するための提案

- ・「食べる」「観る」「買う」の視点を意識すること
- ・日帰りでは味わえないような、夜間や早朝プログラムの造成
- ・宿泊客以外の取込みや来易い仕掛けづくりを地域連携のもと造成すること
- ・地元素材を使った食事メニューの開発、地元業者とのタイアップ企画の造成
- ・ホテル滞在の楽しみ方や過ごし方の提案
- ・お客様に一定の評価を頂くまで、繋げること、継続すること
- ・地域住民や県外からの移住者を巻き込んで多様な視点を生かすこと
- ・地域全体で、「観光」を商売として捉えること
- ・地域の皆さんの協力を得て観光商品を開発していける体制づくり
- ・地域ならではの特色を生かした商品開発
- ・「ウェルカムんちゅ」人材の育成
- ・スポーツツーリズムの推進
- ・海外の先進地やトレンドに関する情報収集等外部視点でのマーケティング

●訪日外国人客の受入に関して

- ・予約のリードタイムは長く早期予約が多くなっているため、日本人観光客の繁忙期と重なる時期のコントロールに配慮すること
- ・文化や風習の違いから起因していると思われる課題に対し、きめ細かな受入体制の整備や外国からのお客様だけに頼り過ぎないような経営戦略の策定が重要
- ・沖縄の文化や習慣に関する理解促進、マナー改善等の啓蒙
- ・外国人観光客が増えることで県内での経済効果が高まることが期待できる
- ・外国人観光客の満足度向上の為のハードやソフトの整備、多言語対応の強化

2. 県民の県内観光需要促進に向けた今後の展望

県民の県内観光需要を促進するための今後の展望として、調査結果及びヒアリング結果から、以下のような取り組みを推進していくことが望ましいと考えられます。

●観光関連事業者等

①県内在住者の県内観光等のきっかけとしては、リフレッシュのためといった自分自身を癒すニーズと、家族サービスといった家族団らんの時間を取りゆっくり過ごすニーズとの大きく二つが挙げられますが、時間的な余裕がある時に出かけるだけでなく、記念日等のお祝いや泊まりたくなるような施策づくりを推進し、ホテル等における滞在満足度や過ごし方提案の充実が必要と考えられます。

②目的を県外観光客と比較すると、1位は同じ「観光地めぐり」ですが、41.9%とやや低く（県外 56.0%）、「保養・休養」が、31.8%とほぼ同率（県外 28.1%）、「イベント・伝統行事」が、25.0%と高くなっており（県外 4.5%）、県外観光客と県内観光客では観光目的の差異が見られるため、県内観光客のニーズや旅行目的を意識した商品、プロモーション施策の構築も必要であると考えられます。（逆に県外観光客がイベント目的で訪れる比率を高める必要もあるかと考えられます。）

③再訪理由の主な要因として、他では味わえない体験が上位を占めており、アクセスの良さや接客の良さ等を上回る結果となっていることから、リピート顧客を増加させるためには、他の土地や日常生活の中では味わえないような空間づくりや体験プログラム等の開発、プロモーションにおいても非日常感や特別感をより訴求していくことで県内需要を拡大させることも可能であると考えられます。また、観光施設やイベント等における接客やおもてなし、ガイド説明などを充実させ、利用者満足度を向上させることも重要であると考えられます。

④県内観光等に出掛ける際の同伴者として「家族」と回答した 202 名中、お子様がいる方は約 54%を占めているため、子供と一緒に楽しめるイベントの造成や観光地等の環境づくりを推進することで、より県民の観光需要の伸びしろを高めることも可能であると考えられます。

⑤テレビを活用した情報発信は比較的どの世代にも有効であり、加えて 20 代等の若年層向けには SNS 等を活用した情報発信、また 40～60 代への情報発信では新聞や web サイトの活用を促進するなど、ターゲット毎に情報発信の媒体を使い分けることも重要であると考えられます。

●地域連携

①「施設内外の環境整備」や「混雑・渋滞解消」、「交通アクセス」に関する改善要望に関しては、観光事業者単体での対応に限界があるため、行政や地域の企業・住民等を巻き込み連携した施策構築が必要であると考えられます。

②今後の訪日外国人観光客の受入に関しては、外国語対応が可能な飲食店やホテル、観光施設等への分かりやすい「看板やマークなどの表示」や簡単な挨拶や道案内の方法等が書かれた「リーフレット等」の配布・整備、「wifi 環境の整備」など、行政や県内全域における連携体制の構築も有効であると考えられます。



内閣府

平成29年5月18日
～美ら島の未来を拓く～
沖縄総合事務局

「農業生産工程管理（GAP）に関する講演会」 の開催について

将来、沖縄の農業の担い手となる農業大学校や農林高校等の生徒を対象に、農業生産工程管理（GAP）の重要性などについて講義するとともに、農場へ出てより実践的な工程管理を経験してもらうことで、GAPへの関心を深めていただくこととしています。

このため、既にGAPに取り組んでいる農業生産法人（株）みやぎ農園に依頼し、GAP評価員でもある小田哲也氏から講演をしていただきます。

1. 目的及び内容

（1）目的

農業生産工程管理（GAP）は、農業生産活動における各工程の正確な実施、記録、点検及び評価を持続的に行うことにより、食品の安全性向上、環境の保全、労働安全の確保、農業経営の改善などにつながる取組です。

昨年10月、青森県五所川原農林高校が全国で初めてGLOBALG. A. P. を取得したように、今後の農業を担う若い人材が、早いうちから国際水準のGAPに取り組むことは大変重要であることから、沖縄総合事務局においても、農林高校等に対してGAPの推進のための支援を行っています。

このような中、この度、農業大学校及び農林高校等において、GAPに取り組む農業生産法人の協力の上、GAPの重要性や農場における農業資材の適切な管理方法等についての講演会を開催いたします。

（2）内容

【第1部（座学）】

「GAPと農業経営」

講演：農業生産法人（株）みやぎ農園 小田哲也（GAP評価員）

【第2部（実習）】

「農業資材の適切な管理方法」

指導：農業生産法人（株）みやぎ農園 小田哲也（GAP評価員）

沖縄県農林水産振興センター（農業改良普及センター）

普及指導員

2. 開催日時及び場所

【沖縄県立中部農林高等学校】

日 時：平成29年6月2日（金曜日） 11:20～13:10

場 所：沖縄県立中部農林高等学校

所在地：うるま市田場 1570

【沖縄県立八重山農林高等学校】

日 時：平成29年6月9日（金曜日） 11:10～13:00

場 所：沖縄県立八重山農林高等学校

所在地：石垣市字大川 477-1

【沖縄県立農業大学校】

日 時：平成 29 年 6 月 30 日（金曜日） 13:00～16:10

場 所：沖縄県立農業大学校

所在地：名護市大北 1-15-9

※上記 3 校以外の農林高校等は、日程が確定次第プレスリリースいたします。

3. 参加校

沖縄県立農業大学校

沖縄県立北部農林高等学校、沖縄県立中部農林高等学校

沖縄県立南部農林高等学校、沖縄県立宮古総合実業高等学校

沖縄県立八重山農林高等学校、沖縄県立久米島高等学校

4. 報道関係者の皆様へ

取材、カメラ撮りを希望される場合は、事前に別紙の取材申込書に、社名、氏名、連絡先、TV カメラの有無等を御記入のうえ、以下の日時までに申込先へ FAX にてお申し込み下さい。

○沖縄県立中部農林高等学校：平成 29 年 5 月 29 日（月）17 時まで

○沖縄県立八重山農林高等学校：平成 29 年 6 月 2 日（金）17 時まで

○沖縄県立農業大学校：平成 29 年 6 月 26 日（月）17 時まで

<添付資料>

（別紙 1）講演者紹介

（別紙 2）今後の開催予定

（別紙 3）「農業生産工程管理（GAP）に関する講演会」取材申込書

〔お問合せ及び申込先〕

【GAPに関すること】

生産振興課 担当：金城、平良

TEL：098-866-1653

FAX：098-860-1195

【講演会に関すること】

経営課 担当：下地、中川

TEL：098-866-1628

FAX：098-860-1179

【講演者】

○農業生産法人（株）みやぎ農園 代表取締役社長 小田哲也

・平成 22 年 4 月：農業生産法人（株）みやぎ農園へ入社。

毎月、地域の農業者が優良事例や抱えている課題等について意見交換等を行う勉強会を開催。

・平成 27 年 2 月：日本 G A P 規範に基づく農業評価制度の規程による評価員試験に合格（一般社団法人日本生産者 G A P 協会）。

・平成 28 年～ ：地元学生との連携や観光視察の受け入れの取組。

・平成 29 年 4 月 ：代表取締役社長に就任。

【農業生産法人（株）みやぎ農園】

○経営状況

代表者	小田哲也（宮城盛彦氏は平成29年 4 月に会長職へ就任）
住 所	南城市大里字大城2193
設立年	平成20年10月16日
事業内容	生産（鶏卵、野菜）、加工、販売
経営規模	養鶏8,000羽、野菜80アール
従業員数	20人（役員3人、常時雇用9人、パート8人）

～ 今後の開催予定 ～

【沖縄県立北部農林高等学校】

日 時：平成 29 年 9 月下旬
場 所：沖縄県立北部農林高等学校
所在地：名護市字宇茂佐 13

【沖縄県立南部農林高等学校】

日 時：平成 29 年 7 月上旬
場 所：沖縄県立南部農林高等学校
所在地：豊見城市字長堂 182

【沖縄県立宮古総合実業高等学校】

日 時：平成 29 年 7 月上旬
場 所：沖縄県立宮古総合実業高等学校
所在地：宮古島市平良下里 280

【沖縄県立久米島高等学校】

日 時：調整中
場 所：沖縄県立久米島高校
所在地：久米島町字嘉手苅

沖縄総合事務局農林水産部経営課 下地、中川 宛て

電 話：０９８－８６６－１６２８

FAX：０９８－８６０－１１７９

「農業生産工程管理（GAP）に関する講演会」
～中部農林高等学校 ６月２日（金）開催～

取材申込書

開催日時：平成 29 年 6 月 2 日（金） 11:20～13:10

開催場所：沖縄県立中部農林高等学校 うるま市田場 1570

社名（支局等）	氏名	記者、カメラマンの区分

代表連絡先 _____（会社電話）

緊急連絡先 _____（携帯電話）

※取材を希望される場合は、５月 29 日（月）１７時までに、別紙により担当者宛てに F A X でお申し込み下さい。

※取材を希望される報道関係者の方は、当日記者証等の身分証をご提示いただきますので、あらかじめご了承ください。

※上記の個人情報は、「農業生産工程管理（GAP）に関する講演会」の取材者の確認のみに利用し、それ以外のことには利用いたしません。

沖縄総合事務局農林水産部経営課 下地、中川 宛て

電 話：０９８－８６６－１６２８

FAX：０９８－８６０－１１７９

「農業生産工程管理（GAP）に関する講演会」
～八重山農林高等学校 ６月９日（金）開催～

取材申込書

開催日時：平成 29 年 6 月 9 日（金）11:10～13:00

開催場所：沖縄県立八重山農林高等学校 石垣市字大川 477-1

社名（支局等）	氏名	記者、カメラマンの区分

代表連絡先 _____（会社電話）

緊急連絡先 _____（携帯電話）

※取材を希望される場合は、６月２日（金）１７時までに、別紙により担当者宛てに F A X でお申し込み下さい。

※取材を希望される報道関係者の方は、当日記者証等の身分証をご提示いただきますので、あらかじめご了承ください。

※上記の個人情報は、「農業生産工程管理（GAP）に関する講演会」の取材者の確認のみに利用し、それ以外のことには利用いたしません。

沖縄総合事務局農林水産部経営課 下地、中川 宛て

電 話：０９８－８６６－１６２８

FAX：０９８－８６０－１１７９

「農業生産工程管理（GAP）に関する講演会」
～農業大学校 ６月 30 日（金）開催～

取材申込書

開催日時：平成 29 年 6 月 30 日（金）13:00～16:10

開催場所：沖縄県立農業大学校 名護市大北 1-15-9

社名（支局等）	氏名	記者、カメラマンの区分

代表連絡先 _____（会社電話）

緊急連絡先 _____（携帯電話）

※取材を希望される場合は、6 月 26 日（月）17 時までに、別紙により担当者宛てに FAX でお申し込み下さい。

※取材を希望される報道関係者の方は、当日記者証等の身分証をご提示いただきますので、あらかじめご了承ください。

※上記の個人情報は、「農業生産工程管理（GAP）に関する講演会」の取材者の確認のみに利用し、それ以外のことには利用いたしません。

取ってよかったGAP認証！！ ～先行事例～

J A おおいた G A P 研究会（大分県）

JGAP

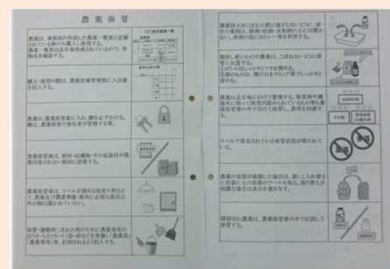
販路拡大を目指し、66人の生産者が集まって、3品目（かんきつ、みつば、いちご）で団体認証を取得！

<特色>

- 導入時には文書等を使用せず目的や必要性を説明し、合意形成実践段階で分かりやすいマニュアルを使用し、生産者の負担軽減
- 団体認証によって、一人当たりの取得費用が低減

<効果>

- 販路拡大につながり、収益が向上
- 農作業事故が減少



農家向け管理マニュアル

J A くるめサダ菜部会（福岡県）

GLOBALG.A.P.

販路拡大を目指し、団体認証を取得！ 現在、輸出も検討中！

<特色>

- 13人の生産者が集まり、販路拡大やオリパラ東京大会を見据え、認証取得。輸出も検討中。
- ICTを活用した生産管理システムの導入
- 団体認証によって、一人当たりの取得費用が低減

<効果>

- 経営主及び雇用者の安全意識の向上にもつながる



GLOBALG.A.P. の審査

静岡県温室農業協同組合クラウンメロン支所（静岡県）

GLOBALG.A.P.

輸出の推進に向けて、若手生産者を中心に団体認証を取得！

<特色>

- 組合員のうち、まずは若手生産者を中心に、16名（全組合員の約1割）から取得。現在20名に拡大。

<効果>

- 新聞やテレビで何度も取り上げられ、イメージが向上
- タイ、マレーシアへ輸出し、高値で取引



組合員が農場内の点検を実施

（有）ユニオンファーム（茨城県）

JGAP

法人経営の改善に向けてGAP認証を取得！販路の拡大にもつながる。

<特色>

- 様々な取引先に販路を開拓
JGAPのほか有機JAS認証も取得

<効果>

- 納入先からの異物混入等のクレームが減少
- 従業員の責任意識が向上
- 従業員の時間外労働の縮減にもつながる



病害虫の被害を受けた野菜の特徴を写真で共有し、従業員に注意喚起

このパンフレットやGAPについてのお問い合わせ

農林水産省 生産局 農業環境対策課（GAP推進グループ）

HPはこちら ▶▶ <http://www.maff.go.jp/j/seisan/gizyutu/gap/index.html>

電話番号 ▶▶ 03-6744-7188

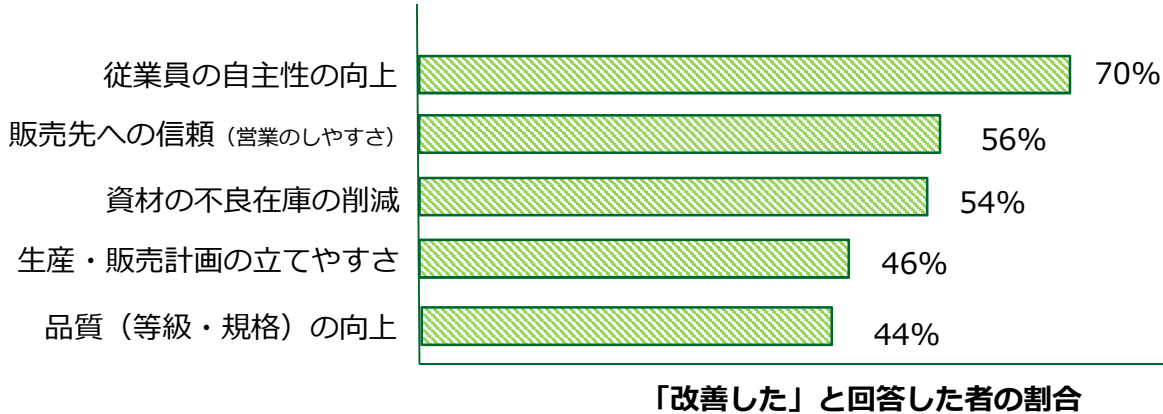
「GAP」でより良い農業生産を！

GAPとは、
農産物（食品）の安全を確保し、よりよい農業生産を実現する取組！

- 農産物の生産で最も重要なことは、食品としての安全を確保することです。
- 生産者のみなさんは、生産物の安全を確保するための生産履歴の記帳を中心に、環境の保全、労働の安全を確保するための点検などを日頃より行っていることと思います。
- GAPとは、これらの取組状況を記録簿や掲示物によって確認・表示しながら、農産物（食品）の安全を確保し、より良い農業生産を実現する取組です。

GAPを実施すると、経営の改善に効果があります！！

GAP実施による経営改善効果



出典：「GAP導入による経営改善効果に関するアンケート調査結果」(H25.1（独）農業・食品産業技術総合研究機構）
を基に農林水産省生産局農業環境対策課で作成

＜コラム＞ 高校生もGAPに取り組んでいます！

青森県立五所川原農林高校では、これからの農業にはGAPが必要だと考え、校内にGAPチームを結成。

放課後や土日に話し合いを重ね、わずか4ヶ月でGAP認証を取得。（写真）五所川原農林高校



日本では、約4,500の生産者のみなさんがGAP認証を取得しています！（H29.3現在）

(1) GAPに取り組みましょう！！

まずは農業生産のレベルアップ！！

GAPをする

ステップ1：基本の整理整頓から！

みなさんがこれまでも取り組んできた**整理整頓**や、**生産履歴の記帳**が基本です。



写真提供：(一財)日本GAP協会



ステップ2：チェック項目に従って、農場内を点検！

いつもやっていることですが、問題点を見つけたら改善していきましょう。

食品安全

<日頃の取組>

異物混入の防止、
農薬の適正使用と保管



包装資材のそばに灯油など汚染の
原因となるものを置かない

ほかにも
来訪者への衛生指示

など

環境保全

<日頃の取組>

適切な施肥、土壌浸食の防止、
廃棄物の適正処理・利用



農薬空容器などは分別して処分

ほかにも
水の使用量把握と節水対策

など

労働安全

<日頃の取組>

機械・設備の点検・整備、
作業安全用の保護具の着用



危険箇所の掲示をする

ほかにも
事故防止の作業手順書作成

など

人権保護

家族経営協定の締結、
技能実習生の作業条件遵守

など

農場経営管理

責任者の配置、教育訓練の実施、
内部点検の実施

など

その他

商品回収テストの実施、
資材仕入先の評価

など

GAPに取り組むときには、専門家の指導を受けることが効果的です。
民間のコンサルタント会社もありますが、営農指導員や普及指導員の中でGAPの指導
ができる方もいます。普及指導センターや農協にも相談してみましょう。

※ 普及指導員や営農指導員から指導が受けられれば、**コンサルタント費用が削減**できます。

※ 農協等では、営農指導員などが指導者研修を受講し、推進体制を整備することが有効です。

(2) GAP認証を取りましょう！！

認証が必要になったら次のステップへ！！

GAP認証をとる

- ・取引先からの要求に応じたい
- ・東京オリンピック・パラリンピックに出したい
- ・輸出したい

認証を
取りましょう！！

ステップ3：準備完了、いざ審査！

- ・審査会社に申込み。(相談はお早めに)
- ・審査員に取組を評価してもらいます。→指摘があれば改善！



ステップ4：ついに認証取得！！

- ・引き続き、より良い農業生産に向けて改善していきましょう！
 - ※ 認証取得までに標準で半年～1年程度かかります。
 - ※ 認証の有効期間は通常1年間です。
 - ※ 認証を取得する場合は一定の費用がかかります。



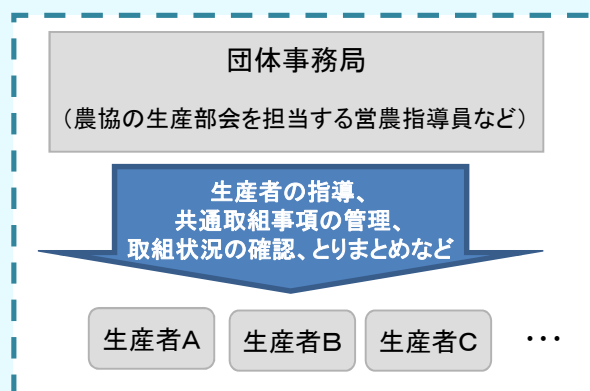
GAP認証の取得で販売先を拡大！！

取引先の要望をよく聞いて、必要な認証を取得しましょう。

	JGAP	GLOBALG.A.P.
オリンピック・パラリンピックの調達基準での要請	○	○
国内販売先の取得要請	△ (一部の大手スーパーなど)	△ (一部の大手スーパーなど)
海外マーケットの現状	△ (台湾、香港、東南アジアで普及推進中)	△ (特にヨーロッパで普及)

団体認証に取り組むことで個々の生産者の負担を軽減！！

複数の生産者が集まってグループを構成し、認証取得を目指しましょう！



<団体認証の効果>

- 個別認証で求められる取組の一部が団体の取組として共通化され、個々の生産者の皆さんの負担が軽減されます！
- グループが大きくなるほど、個々の生産者の皆さんの費用負担は軽減します！

※審査費用(例)

個人	団体 (50名の場合：1名あたり)
10万円～55万円程度	2万円～11万円程度

沖縄水源情報

日々の最新情報

平成29年 5月 18日

沖縄渇水対策連絡協議会資料

問合せ先 → 098-866-1908

1. 降雨の状況

(5月 17日 0:00~24:00)

○北部(国管理9ダム流域雨量)

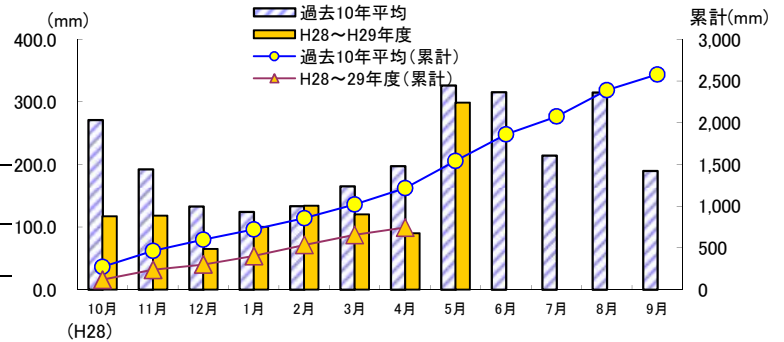
2mm

○中部(倉敷ダム流域雨量)

3mm

○南部(那覇雨量)

7mm



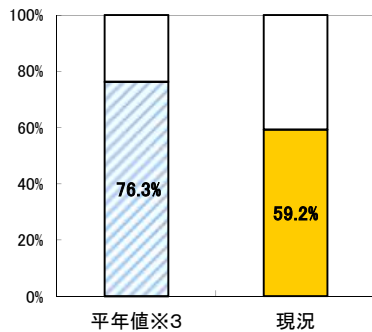
月毎の降雨量(国管理9ダム流域)

2. ダムの状況

(5月 18日 0時現在)

国管理9ダム貯水率※1

前日比 1.0%
平年比 -17.1ポイント

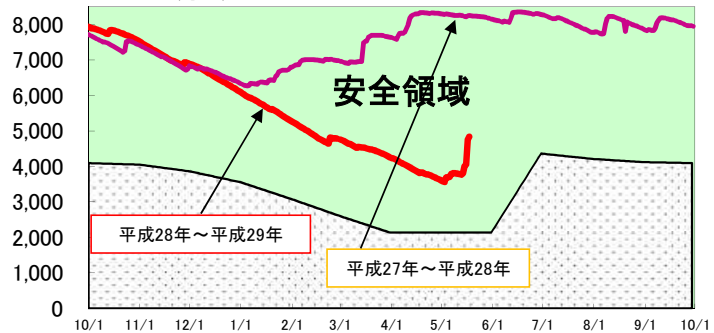


渇水指標

(国管理9ダム及び県管理ダム(倉敷ダム)の

上水道分貯水量で示す参考値)※2

上水道分貯水量 (万m³)



※1 国管理9ダム貯水率、貯水量には、農業用水、工業用水等が含まれている。そのため渇水の指標は上水道分の貯水量で評価している。

※2 渇水指標が安全領域を外れても直ちに給水制限を行うものではない。また、上水道分は国管理9ダムと倉敷ダムのうち水道用水として使用できる値を示している。(H27.7.31分より倉敷ダムを追加)

※3 過去10年間の国管理ダム貯水率の平均値

○各ダムの貯水状況

	貯水量(万m³)	貯水率	上水道分貯水量(万m³)
国管理9ダム	6,235	59.2 %	4,633
県管理1ダム(倉敷ダム)	348	59.0 %	210
企業局管理1ダム(山城ダム)	93	78.0 %	93
11ダム合計	6,676	59.4 %	4,935

3. 上水道の日需要量

(5月 17日)

日需要量(取水)の内訳	日需要量(取水)	構成比率	(万m³)	
			前日比	
国管理9ダム	30.2	72.4 %	+ 1.30	
県管理1ダム	1.6	3.7 %	+ 0.49	
企業局管理1ダム	0.0	0.0 %	0.00	
河川取水	7.4	17.7 %	+ 1.65	
地下水取水	1.4	3.4 %	- 0.80	
海淡水施設取水	1.2	2.8 %	- 0.03	
取水量 計	41.8	100.0 %	+ 2.61	

41.8 万m³/日